

経済学基礎①②		講義	准教授 小松原 崇史	
科目カテゴリ	スポーツマネジメントコースの必修科目、スポーツトレーナーコースの必修科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの教養選択科目	科目ナンバリング	11120104 12220119 13220101	

1. 授業のねらい・概要

本授業では、経済学の中でも、とくにミクロ経済学についての基礎的な考え方を説明します。経済における一般的な法則を見出そうとすることが、ミクロ経済学の目指していることです。

2. 授業の進め方

講義形式で授業を行います。授業の理解を深めるため、問題演習を行うことがあります。なお、履修者の理解度に応じて、以下の授業計画を変更する可能性があります。

3. 授業計画

1. この授業の目的	9. 前半のまとめと復習
2. 市場とは	10. 市場均衡とは
3. 需要（需要曲線）	11. 市場均衡の変化
4. 需要（個人の需要と市場の需要）	12. 応用問題①（価格の規制）
5. 需要（需要曲線のシフト）	13. 応用問題②（薬物の取締）
6. 供給（供給曲線）	14. 応用問題③（農業の発展）
7. 供給（個人の供給と市場の供給）	15. 後半のまとめと復習
8. 供給（供給曲線のシフト）	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の授業を受講後、その回の内容を復習してください。そのためには、毎回1，2時間程度が必要です。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

問題の解答を、授業内に解説します。

6. 授業における学修の到達目標

目標は、経済学の基本的な考え方を、理解できるようになることです。

7. 成績評価の方法・基準

期末試験（100%）によって、成績を評価します。

8. テキスト・参考文献

参考書として、N・グレゴリー・マンキュー著『マンキュー経済学 I ミクロ編（第4版）』（東洋経済新報社、2019年）を使用します。

9. 受講上の留意事項

私語を厳禁とします。守れない学生に対しては直接注意を行い、改善が見られない場合には退出を求めます。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

マーケティング基礎①②		講義	教授 大澤 秀一	
科目カテゴリ	スポーツマネジメントコースの必修科目、スポーツトレーナーコースの必修科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの教養選択科目	科目ナンバリング	11120106 12220120 13220102	

1. 授業のねらい・概要

マーケティングは一言で言うと「買ってもらう仕組づくり」です。顧客価値の創造と提供を行う経営活動の総称と表現することもできます。授業ではマーケティングの基礎を体系的に学びます（1 Semesterで完結）。市場分析、顧客ニーズの把握、価値ある製品・サービスの開発、戦略的な価格付け、宣伝と販売戦略、顧客エンゲージメントの獲得というプロセスを学んだ後、複数の業種・業界のケーススタディを取り上げることで実践的な知識を身に付けます。マーケティングを入口にしてビジネスに興味を持ち、学び続けるための基礎を習得することがねらいです。

2. 授業の進め方

授業は講義形態で行い、理解度を確認する小テストを3回繰り返しながら概ね以下の内容に沿って進めます。

3. 授業計画

1. 授業の概要説明	9. デジタルマーケティング ② SNS
2. マーケティングの分析フレームワーク	10. デジタルマーケティング ③ パーソナライズ
3. 市場分析／市場細分化／選定／ポジショニング	11. 第2回小テスト
4. マーケティングミックス ① 製品戦略	12. ケーススタディ ① 製造業
5. マーケティングミックス ② 価格戦略と③ 流通戦略	13. ケーススタディ ② 小売業
6. マーケティングミックス ④ プロモーション戦略	14. 第3回小テスト
7. 第1回小テスト	15. 総まとめ
8. デジタルマーケティング ① マイクロ	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

事前配布される講義資料を予習し、あらましを把握してから授業に臨んでください。授業内容の定着と論点整理のための復習も重要です。予習・復習に2時間以上かけて疑問点や不明点が無くなるまで学修してください。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

各小テストの次の授業で出題の意図と解答のポイントを説明します。

6. 授業における学修の到達目標

メディアなどで報道されるマーケティング関連の情報を理解し、他の人と議論出来るようになることや、自らがマーケティングを学び続けるための基礎を習得することを目標とします。

7. 成績評価の方法・基準

授業への取組姿勢(50%)と小テストの結果(50%)によって評価します。

8. テキスト・参考文献

オリジナルの講義資料を使用します。必要に応じて参考文献などを適宜紹介します。

9. 受講上の留意事項

初回の授業で説明します。授業への主体的な参加を期待します。疑問や不明な点については、遠慮せずに授業などで質問しましょう。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は、シンクタンクや金融機関における実務経験を活かして指導します。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

情報社会とコンピュータ		講義	准教授 関川 弘
科目カテゴリ	スポーツマネジメントコースの必修科目、スポーツトレーナーコースの必修科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの教養選択科目	科目ナンバリング	11120103 12220121 13220103

1. 授業のねらい・概要

コンピュータに関する技術は急速に進歩している。今日では人工知能を活用した新しいサービスが次々登場し社会のあらゆる分野に浸透しつつある。このような情報社会において、日常生活、企業活動、地域活動をスムーズに行うためには、コンピュータの基本的な仕組みを学ぶとともに、人工知能やデータの利活用に関する理解を深める必要がある。本講義では、数理・データサイエンス・AI のリテラシーレベルの素養を身に付ける。

2. 授業の進め方

配布資料を基にした講義形式で進める。毎回、講義後に授業内容のサマリーの提出を求め、その内容について講義でディスカッションする。また、海外の文献や雑誌に掲載されている英語による最新記事や動画を用いて関連動向について検討する。

3. 授業計画

1. コンピュータでデータを作る 2. 新たな社会の発展段階 3. ビッグデータの収集、蓄積、活用 4. 人工知能と機械学習を知る 5. コンピュータからおすすめ情報が出る 6. 情報を見える化する 7. データを読み取る 8. データの説明	9. データの処理 10. 企業における情報システムと AI の活用 11. 観光をデータから見る 12. 医療とデジタル 13. 情報セキュリティに対する脅威と脆弱性 14. 情報セキュリティ対策 15. 個人情報の保護と活用
--	--

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

準備として1時間程度、インターネットや関連文献を用いて調査すること。毎回の講義終了後30分程度、学習した内容をどれだけ多く、正確に説明・解説できるか自身で試みることを。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

回答のポイント、及び出題の目的を説明した資料を配布する。また、毎回の講義で質問を受け付ける。レポート提出を求める場合、次回講義で、いくつかのレポートを事例に取り上げアドバイスをを行う。

6. 授業における学修の到達目標

情報社会とコンピュータ、データサイエンスに関する理解を深め、関連する時事トピックや書籍を理解できるようになる。また、コンピュータやデータを適切に利用できるようになる。

7. 成績評価の方法・基準

期末試験（50％）と毎回講義後に提出を求める講義サマリー（30％）、授業への貢献度（20％）で評価する。サマリーについては、どれだけ多く思考したかを基準に評価する。

8. テキスト・参考文献

教科書をもとに講義するので「データサイエンス入門」（共立出版、豊田修一、樽井勇之）を必ず購入すること。参考文献は適宜紹介する。

9. 受講上の留意事項

情報社会のプラス面とマイナス面を理解しバランスの取れた見識を養うこと。また、新聞やインターネットを通して新しい情報技術とその可能性に対する関心を持つこと。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は、情報システム開発会社における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

生物学基礎		講義	教授 田中 基晴	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの教養選択科目、スポーツトレーナーコースの教養選択科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの教養選択科目		科目ナンバリング	11220126 12220143 13220104

1. 授業のねらい・概要

生体の働きを学ぶに当たっての基礎を学習する。みなさんの仕事は身体機能を高める、または修復することが主な業務である。生体がどのような仕組みで動いているのかを理屈に沿って分かりやすく理解してもらいたい。長い進化の歴史の中で合理的に身体が進化してきたことを理解してもらいたいと思う。授業は高校生物の復習が中心となるが、生体の仕組みの奥深さに興味を持っていただきたい。そうすることで、自ら学ぶ意欲が湧いてくるであろう。

2. 授業の進め方

基本的には、教科書およびプリントを用いて講義（OHP and/or 板書）を進める。授業最後にその日のまとめを入れる。

3. 授業計画

1. はじめに 2. 世界を構成する物質 3. 生体物質 4. 身体内外の圧力 5. 細胞 I（いろいろな細胞） 6. 細胞 II（細胞小器官） 7. 栄養，代謝 8. 栄養，代謝，エネルギー	9. 電気 10. 遺伝情報 11. 細胞分裂 12. 人体の階層構造（組織，器官） 13. 人体の階層構造（器官系） 14. ホメオスタシス 15. 生体防御機構と免疫
---	---

4. 準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

1) 予習（必要時間：約 50 分）

a) 第2回から次週の予習内容を伝える。下記のイ）-ロ）に示す2項目を学生に提示する。

イ) 学習概要

ロ) 受講するにあたり必要な専門用語の説明

2) 復習（必要時間：約 40 分）

a) 授業内容整理

各単元終了後に「まとめ」を提示して知識の確認を行うので、「まとめ」を十分理解、記憶するように復習する。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

1) 筆記試験

a) 正解は貼りだす。

b) 解説は、不正解問題を中心に行う。

6. 授業における学修の到達目標

生物を化学物質で考えるとともに、生物の仕組みを化学物質の特性および化学の仕組みとして学習する。これらの知識は大人としての教養に資していただくとともに、スポーツや救急救命に役立ててもらいたい。

7. 成績評価の方法・基準

1) 成績評価の基準

主にスポーツに携わる者として最低限必要な生物学知識についての理解到達度によって成績評価を行う。

2) 成績評価の方法

- a) 受講態度（出欠・遅刻・早退，スマホ閲覧，など）（30 %）。（スマホ閲覧を禁止しています）
- b) 筆記試験（70 %）。

8. テキスト・参考文献

テキスト：解剖生理学や生化学をまなぶ前の楽しくわかる生物・化学・物理 岡田隆夫 羊土社 2019 年
参考書：大森徹の生物基礎が驚くほど身につく 41 講 大森徹 文英堂 2018 年

9. 受講上の留意事項

履修までに高校の生物（または生物基礎）を復習しておくこと。また解剖生理学を学習しておくことが望ましい。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。製薬会社における新薬開発の実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

化学基礎		講義	教授 田中 基晴	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの教養選択科目、スポーツトレーナーコースの教養選択科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの教養選択科目		科目ナンバリング	11220127 12220144 13220105

1. 授業のねらい・概要

私たちの体は化学物質から構成されている。スポーツをするにも、救急救命をするにも、化学物質、化学物質間の相互作用、及び反応を知っていると、さまざまな処置や対応について深く理解することができる。理解できると興味が湧き、自ら学ぶ意欲が一層湧いてくるものである。授業は高校化学の復習が中心となるが、より実生活、スポーツに関連した化学を勉強することを目指している。

2. 授業の進め方

基本的には、教科書およびプリントを使って講義（OHP and/or 板書）を進める。授業最後にその日のまとめを説明する。

3. 授業計画

1. はじめに一物質の基本粒子	9. 酸と塩基
2. 化学結合	10. 酸化還元反応
3. 物質と化学反応式	11. 典型元素の性質
4. 物質の状態変化	12. 遷移元素の性質
5. 気体の性質	13. 脂肪族化合物
6. 液体の性質	14. 芳香族化合物
7. 化学反応と熱	15. 高分子化合物と生活
8. 反応の速さと平衡	

4. 準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

授業前に教科書の予定範囲を読み、大事そうだと思うところや分からないところをノートに書きながら、予習して下さい。分からないところに印をつけて下さい。また、ネットでもよいので語句の意味を確認しておくこと。

各単元終了後に「まとめ」を提示して知識の確認を行うので、「まとめ」を十分理解、記憶するように復習する。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

筆記試験

- 正解は貼りだす。
- 解説は、不正解問題を中心に行う。

6. 授業における学修の到達目標

化学物質の特性及び化学反応の仕組みを学び、スポーツや救急救命に役立てる。

7. 成績評価の方法・基準

1) 成績評価の基準

主にスポーツに携わる者として最低限必要な化学的知識についての理解到達度によって成績評価を行う。

2) 成績評価の方法

- 受講態度（出欠・遅刻・早退、スマホ閲覧など）（30%）。（スマホ閲覧を禁止しています）
- 筆記試験（70%）。

8. テキスト・参考文献

テキスト：「高校の化学」が一冊でまるごとわかる 竹田淳一郎 ベレ出版 2018年出版

9. 受講上の留意事項

高校で学んだ「化学基礎」または「化学」を復習しておくこと。

10. [実務経験のある教員等による授業科目]の該当の有無

該当する。製薬会社における新薬開発の実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

トレーニングの科学的基礎		講義	教授 小笠原 正志
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの専門選択科目、スポーツトレーナーコースの選択必修科目	科目ナンバリング	11321202

1. 授業のねらい・概要

トレーニングはアスリートの競技力向上を目的として発展し、これまで安全で効果的なプログラムが数多く開発されてきた。人生 100 年時代を迎え、アスリートのみならず広く一般にもトレーニングの必要性が叫ばれるようになり、ストレス解消、体力づくり、健康増進、介護予防、自己研鑽などその目的も多様化している。スポーツ指導者には、トレーニング目的、年齢、体力レベル、健康状態、発育発達段階など、クライアントの個別状況を考慮し、それに合致したトレーニングプログラムを構築する能力が求められている。そこで、本講義では、解剖学・運動生理学・バイオメカニクスといった基礎的な科目のなかから特にトレーニングに重要な項目をピックアップして解説し、適切なプログラムの構築とその指導を可能とする基本的な知識を獲得することを目的とする。

2. 授業の進め方

主に、Power Point を用いたスライドおよび板書による講義形式で授業を行う。必要に応じて動画を教材として利用し、イラストを中心にわかりやすく編集された教科書を補足的に用いる。また、各回に行う課題の実施により、講義の理解度を確認しながら展開していく。

3. 授業計画

1. ガイダンス	9. 神経系・ホルモン
2. エネルギー供給系	10. 筋肥大のメカニズム
3. 運動強度の変化とエネルギー供給系	11. トレーニングの原理原則
4. 運動時の心肺機能	12. トレーニングプログラムの立案
5. 酸素摂取量の変化	13. トレーニングの目標設定
6. 筋骨格系	14. ピリオダイゼーション
7. 筋線維の特性（速筋線維と遅筋線維）	15. 人生 100 年時代におけるトレーニングの意義
8. 筋の収縮様式・骨格と筋のてこ作用	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

テキストによる予習(30 分程度)、前回のノートでの復習(30 分程度)。

次回取り扱う範囲のトレーニングおよび生理学的・解剖学的背景について理解および把握しておくこと。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

各回に行う課題は次回の授業で解説する。期末試験については後日解答を掲示板等に掲示する。

6. 授業における学修の到達目標

様々なトレーニング方法の中から対象者に適したトレーニングプログラムを提供できる力を身につけていくことを目指す。その際に、対象者の体力レベルを適切に測定・評価していく力を併せて身につけていくことを目指す。

7. 成績評価の方法・基準

講義への参加意欲ならびに各回の課題への取り組み状況（50%）、および期末試験（50%）により総合的に評価する。ただし、講義回数の 3 分の 1 以上欠席した者は評価の対象としない。

8. テキスト・参考文献

小笠原正志、「健康生活とスポーツ」、SIS、2024

参考図書：「ストレングス&コンディショニング第4版」、ブックハウス HD

9. 受講上の留意事項

私語および携帯電話の使用，飲食，帽子の着用は禁止とする。

NSCA の CSCS 資格取得希望者を優先とする。トレーニングの基礎知識を有することが望ましい。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は，企業における実務経験（地域住民の運動指導）を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

選択英語 A (2)		講義	講師 松本 秀樹	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの必修科目、スポーツトレーナーコースの必修科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの教養選択科目	科目ナンバリング	11110201 12210201 13210201	

1. 授業のねらい・概要

英語の4技能を使ったコミュニケーションに習熟することによって、様々な背景をもつ人々とも自然と交流し意思疎通がはかれるようになることをねらいとする。日頃の生活や将来の仕事の場面においても英語でコミュニケーションを取ろうとする態度が身に付くように具体的な場面を設定して生きた英語に慣れ親しみながら学べるようにする。また、英語を学ぶことによって異文化を理解し自身の発想を広げて、多角的に物事を見て考える姿勢を身に付ける。

2. 授業の進め方

2コマで1ユニット進むこととする。ユニットの前半は、テーマに関する内容についてリスニングをしてウォーミングアップを行い、関連する語彙や表現を学ぶ。テーマについての会話を動画により学習し、リスニングやロールプレイ等を通してコミュニケーションに習熟しつつ文法事項を学習して英語運用能力を高める。ユニットの後半は、テーマに関してのリーディングやライティングを行い英語の実践的総合力を向上させるとともに、文化・習慣についての理解を深める機会を設定する。

3. 授業計画

1. Course orientation and overview	16. Unit 7 Describe personality traits
2. Unit 1 Greet people and introduce yourself	17. Unit 7 Create a personality profile
3. Unit 1 Exchange personal information with your classmates	18. Unit 8 Identify different movie genres
4. Unit 2 Talk about places in the city	19. Unit 8 Rate your favorite movies
5. Unit 2 Plan a tour around town	20. Unit 9 Talk about daily routines
6. Unit 3 Ask for and give directions	21. Unit 9 Create a weekly schedule
7. Unit 3 Examine how GPS has affected travel	22. Unit 10 Talk about your favorite sports
8. Unit 4 Identify different kinds of restaurants	23. Unit 10 Summarize exercise goals and achievements
9. Unit 4 Evaluate a restaurant's food and service	24. Unit 11 Identify illness symptoms
10. Unit 5 Identify different grocery items	25. Unit 11 Instruct others on how to stay healthy
11. Unit 5 Make a grocery shopping list items	26. Unit 12 Define different weather patterns
12. Unit 6 Define different types of clothing	27. Unit 12 Write about a local weather report
13. Unit 6 Compare outfits and styles	28. Review II
14. Review I	29. Course Review
15. Mid-Term report	30. Course Summary

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

授業前には該当箇所の予習をして、授業終了後は学習した内容を復習して習熟に努めること。これらの学修に1時間を要する。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポート・小テストについては採点の上返却する。また、提出物等は講評し改善のためのアドバイスをを行う。

6. 授業における学修の到達目標

1. 英語の基本的な技能に習熟することによって、英語による意思の疎通を図ることができる。
2. 異文化について学び理解することによって、日常生活での自身の発想を広げ多角的なものの見方を身に付けることができる。

7. 成績評価の方法・基準

試験とレポート（50%）、提出物・小テスト・授業の参加度・積極性（50%）を総合して評価する。

8. テキスト・参考文献

角山照彦/Live ABC editors 著, 『Live Horizons Book 1』, 成美堂（2026）

9. 受講上の留意事項

英語をわかりやすく基礎から段階を踏んで授業を行うので、英語に自信がなくても安心して受講してほしい。授業には辞書または電子辞書を持参すること。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

選択英語 A (3)		講義	講師 松本 秀樹	
科目カテゴリ	スポーツマネジメントコースの必修科目、スポーツトレーナーコースの必修科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの教養選択科目	科目ナンバリング	11110201 12210201 13210201	

1. 授業のねらい・概要

英語の4技能を使ったコミュニケーションに習熟することによって、様々な背景をもつ人々とも自然と交流し意思疎通がはかれるようになることをねらいとする。教材に登場する同世代の人物から英語圏各地の文化、風土とともに彼ら自身の現在の姿や将来のビジョンを知り、学生自身の将来像を考える機会とする。日頃の生活や将来の仕事の場面においても英語でコミュニケーションを取ろうとする態度が身に付くように具体的な場面を設定して生きた英語に慣れ親しみながら学べるようにする。また、異文化を理解し自身の発想を広げ、多角的に物事を見て考える姿勢を身に付ける。

2. 授業の進め方

2コマで1ユニット進むこととする。ユニットの前半は、トピックに関する内容についてウォーミングアップを行い、関連する語彙や表現を学ぶ。その後トピックについて動画により学習し、内容の要点を捉えた上でコミュニケーション活動に習熟し英語運用能力を高めるとともに、異文化理解を通して世界の中の自分を意識する機会とする。ユニットの後半は、英語圏に住む同世代のインタビューを視聴してリスニングやリーディングを行い英語の実践的総合力を向上させるとともに、文化・習慣についての理解を深め学生自身の将来像を考える機会を設定する。

3. 授業計画

1. Course orientation and overview	16. Unit 8 New Zealand Introduction
2. Unit 1 Los Angeles Introduction	17. Unit 8 Into the Peacefulness
3. Unit 1 Living the Dream	18. Unit 9 New Zealand Documentary
4. Unit 2 Los Angeles Documentary	19. Unit 9 An Interesting Walk with Sophie
5. Unit 2 Meeting Different Kinds of People	20. Unit 10 England Introduction
6. Unit 3 Scotland Introduction	21. Unit 10 Having a Big Influence on the World
7. Unit 3 A country Filled with Imagination and New Ideas	22. Unit 11 England Documentary
8. Unit 4 Scotland Documentary	23. Unit 11 Living Your Life to the Maximum
9. Unit 4 Being a Typical Scot, and Proud of It	24. Unit 12 The Bahamas Introduction
10. Unit 5 Canada Introduction	25. Unit 12 Developed Tourism Industry
11. Unit 5 Living in Harmony with Nature	26. Unit 13 The Bahamas Documentary
12. Unit 6 Canada Documentary	27. Unit 13 Making Steps to Achieve Your Goals
13. Unit 6 A Young Adventurer in Ottawa	28. Unit 14 Review Section II
14. Unit 7 Review Section I	29. Course Review
15. Mid-Term report	30. Course Summary

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

授業前には該当箇所の予習をして、授業終了後は学習した内容を復習して習熟に努めること。これらの学修に1時間を要する。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポート・小テストについては採点の上返却する。また、提出物等は講評し改善のためのアドバイスをを行う。

6. 授業における学修の到達目標

1. 英語の基本的な技能に習熟することによって、英語による意思の疎通を図ることができる。
2. 異文化について学び理解することによって、日常生活での自身の発想を広げ多角的なものの見方を身に付けることができる。

7. 成績評価の方法・基準

試験とレポート（50%）、提出物・小テスト・授業の参加度・積極性（50%）を総合して評価する。

8. テキスト・参考文献

森田彰, Bill Benfield 他 著, 『World Wide English Volume 1 世界で輝く若者たちの英語1』成美堂（2016）

9. 受講上の留意事項

英語をわかりやすく基礎から段階を踏んで授業を行うので、英語に自信がなくても安心して受講してほしい。授業には辞書または電子辞書を持参すること。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

選択英語 A (3)		講義	講師 村元 エリカ マリア	
科目カテゴリ	スポーツマネジメントコースの必修科目、スポーツトレーナーコースの必修科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの教養選択科目		科目ナンバリング	11110201 12210201 13210201

1. 授業のねらい・概要

本コースでは、この分野の新たな知識を身につけ、興味に応じた言語的・文化的なトピックスを探求し、現代社会において有用となるグローバルな思考力を養います。

2. 授業の進め方

選択英語 A は、アクティブ・ラーニングを取り入れ、学生が実践的な問題解決能力を養うことを目指します。具体的には、PBL（課題解決型学習）、調査学習、グループワーク、プレゼンテーション、リフレクションを行い、学生はグループで協力して興味のあるテーマに関連する問題を調査し、アイデアを出し合い、解決策を見つけます。英語のスキルについて心配せず、挑戦し、間違いから学び、グループで成長することが大切です。

3. 授業計画

- 第1回 Welcome: Introduction to the Course and Participants / Course Orientation
- 第2回 Syllabus Overview / General Tasks
- 第3回 Topic 8: Embracing Diversity and Knowledge Sharing: Learning Through Global Topics (pp. 1 - 4)
- 第4回 What You Will Learn & Make Groups (pp. 5-10)
- 第5回 Parts of Research & Part 1 - Research Topic (pp. 11-15)
- 第6回 Sources and References - Research Skills (pp. 16-18)
- 第7回 Part 2 - Reason for Interest (pp. 19-21)
- 第8回 Part 3 - Views from Japan (pp. 22-25)
- 第9回 Part 4 - Country Description and Language (pp. 26-32)
- 第10回 Part 5 - Communities in Japan & Interview (pp. 33-38)
- 第11回 Part 6 - Views from your group's selected country (pp. 39-43)
- 第12回 Part 7 - Partnership and Actions (pp. 44-48)
- 第13回 Part 8 - Comparison (pp. 49-53)
- 第14回 Part 9 - Japanese Professional (pp. 54-56)
- 第15回 Citation and Academic Integrity (pp. 57-59)
- 第16回 Preparation for Group Presentation - Selecting Slide Software (pp. 60-62)
- 第17回 Preparation for Group Presentation - Dividing Tasks and Designing the Presentation (pp. 63-70)
- 第18回 Presentation Requirements (p. 71)
- 第19回 Presentation Requirements - Greetings and Quiz (pp. 72-73)
- 第20回 Presentation Requirements - Speaking Notes (pp. 74-75)
- 第21回 Presentation Requirements - Preparation for Q&A (pp. 76-79)
- 第22回 Practice and Presentation (pp. 80-82)
- 第23回 Presentation Evaluation Process (pp. 83-85)
- 第24回 Presentation – Day 1
- 第25回 Presentation – Day 2
- 第26回 Presentation – Day 3
- 第27回 Presentation – Day 4
- 第28回 Presentation – Day 5
- 第29回 Can-Do Questions (p. 86)
- 第30回 Research Report Writing / Pick Up Loose Ends / Review Course

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

前期週2回型。遅刻・欠席しない様に、積極的に参加してください。授業で配布された詳細日程表に基づいて、次の講義で学習する範囲を予習してくる。自主的に課題を進めてください。なお、これらの準備学修には、プレゼンテーション用スライドおよびスピーキングノートの準備、ならびに他の受講生の発表に関するリフレクションペーパーの作成を含め、1時間以上が必要である。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

教科書課題または授業外課題はすべて授業中に確認する。プレゼンテーションの講評を行う。筆記試験は採点し、返却する。

6. 授業における学修の到達目標

- 一般教養および専門科目に必要な英語の4技能（リスニング、スピーキング、リーディング、ライティング）を効果的に使える能力を示すことができる。
- 世界中の多様な言語的・文化的文脈を探究することができる。
- 英語の実践を通して、異なる文化や社会と自身を結びつけ、多様性について考察することができる。
- 英語で、自分の考えを口頭および文章で表現することができる。

7. 成績評価の方法・基準

このコースに合格するためには、60%の合格点を取得する必要があります。評価は以下の通りです。

- (20%) リフレクションペーパー（コメント用紙）
- (20%) 課題(教科書課題および/または授業外課題)
- (40%) プレゼンテーション
- (20%) 自己評価・レポート

8. テキスト・参考文献

教科書： 指定しない。

参考資料： 授業内で配布する資料を使用する。

9. 受講上の留意事項

授業には、配布資料／ハンドアウト、パソコンまたはタブレット、英和・和英辞書（電子辞書を含む）を持参すること。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

選択英語 A (4)		講義	非常勤講師 佐野 敏之	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの必修科目、スポーツトレーナーコースの必修科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの教養選択科目	科目ナンバリング	11110201 12210201 13210201	

1. 授業のねらい・概要

英語を聞き、話し、読み、書く総合的能力の向上を図り、英語への苦手意識を無くし、相手に臆せず円滑なコミュニケーションが取れるよう英語に親しみ慣れることをねらいとします。様々な場面での会話や、日本とは異なる視点から書かれた文書講読を通じて、異文化多様性に触れる機会を得ることで視野を広げることに繋がります。

2. 授業の進め方

4コマで1ユニットを構成します。ユニットの内容は、1. 語彙と会話リスニング、2. 様々な表現によるスピーキング、3. 文法と練習問題、4. 読解と作文です。まず基本的表現を習得した上で、自分自身に置き換えた会話を学生同士のロールプレイも交えて体得します。次に、様々な状況を想定し、臨機応変に対応できる実践的なコミュニケーションスキルを養います。読解は、速読の訓練と文法を介した熟読の両面から、文章の内容・意図を迅速かつ正確に把握する力をつけます。

3. 授業計画

1. Course Introduction and Overview	16. Unit 4:比較級・最上級
2. Unit 1:Meeting People / School Clubs	17. Unit 4:Teen Fashion
3. Unit 1:Greeting People / Making Introductions	18. Unit 5:A Helping Hand at Home
4. Unit 1:現在形 / 肯定文・否定文・疑問文	19. Unit 5:Complaining and Asking
5. Unit 1:A Strange College Club	20. Unit 5:人称代名詞・所有格・相関接続詞
6. Unit 2:Time to Eat / Enjoy Free Food	21. Unit 5:Make Your Home Green
7. Unit 2:Asking and Talking about a Meal	22. Unit 6:Going Places
8. Unit 2:過去形 / 肯定文・否定文・疑問文	23. Unit 6:Asking for and Giving Directions
9. Unit 2:Eat More and Lose Weight	24. Unit 6:助動詞
10. Unit 3:Living with Technology	25. Unit 6:Getting Around
11. Unit 3:Making and Responding to Invitations	26. Unit 7:Not Feeling So Good
12. Unit 3:現在進行形	27. Unit 7:A Patient Might Say
13. Unit 3:It's a YouTube World	28. Unit 7:連結動詞・使役動詞
14. Unit 4:Shoppng for Clothes	29. Unit 7:Natural Medicine for Your Cold
15. Unit 4:Receiving Customers / Customer Might Ask	30. Class Survey and Review of the Course

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

事前にテキストのレッスン該当箇所を自習用オンライン音源で聴くなどして、テキストの空欄を埋め、質問事項にも解答しておくこと（必要時間 30 分程度）。授業後はオンライン音源を使用するなどして、学習箇所を一通り復習すること（必要時間 20 分程度）。“毎日” 英語に接することが確実な習得につながります。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験実施後、授業内ないしはオンラインにて、解答、解説、講評をフィードバックします。

6. 授業における学修の到達目標

基本的な会話表現を身につけることで、相手に臆することなく英語で日常生活上最低限必要なコミュニケーションが取れるようになります。

7. 成績評価の方法・基準

授業への取り組み姿勢・小テスト・課題（以上計 50%）、期末試験（50%）に基づいて評価します。

8. テキスト・参考文献

テキスト：角山照彦他著『4 技能を高める英語演習 Book1 New Connection Book 1』（成美堂 2022）

9. 受講上の留意事項

受講者の習熟度に応じた分かりやすい説明、段階を踏んだ指導に努めますので、特に、英語に苦手意識を持っている学生、あるいはもう一度基本から学び直したい学生に参加してほしい。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当します。本授業は、金融機関、サービス業界における実務経験を活かして指導します。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

選択英語B(2)		講義	講師 松本 秀樹
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの必修科目、スポーツトレーナーコースの必修科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの教養選択科目	科目ナンバリング	11110202 12210202 13210202

1. 授業のねらい・概要

選択英語A(2)を継続・発展させた内容とする。

英語の4技能を使ったコミュニケーションに習熟することによって、様々な背景をもつ人々とも自然と交流し意思疎通がはかれるようになることをねらいとする。情報について多角的に考えた上で、論理的に自分の意見を述べる方法が身に付くように具体的な場面を設定して学べるようにする。また、英語を学ぶことによって異文化を理解し自身の発想を広げて、多角的に物事を見て考える姿勢を身に付ける。

2. 授業の進め方

2コマで1ユニット進むこととする。ユニットの前半は、テーマに関する内容についてリスニングをしてウォーミングアップを行い、関連する語彙や表現を学ぶ。テーマについての会話を動画により学習し、リスニングやロールプレイ等を通してコミュニケーションに習熟しつつ文法事項を学習して英語運用能力を高める。ユニットの後半は、テーマに関してのリーディングやライティングを行い英語の実践的総合力を向上させるとともに、文化・習慣についての理解を深める機会を設定する。

3. 授業計画

1. Course orientation and overview	16. Unit 7 Describe people's appearances
2. Unit 1 Define smartphone features	17. Unit 7 Add information for emphasis
3. Unit 1 Compare different smartphone models	18. Unit 8 Identify different endangered animals
4. Unit 2 Identify famous dishes from other countries	19. Unit 8 Provide information about an endangered animal
5. Unit 2 Recommend and describe dishes	20. Unit 9 Identify different sections in a supermarket
6. Unit 3 Identify various musical instruments	21. Unit 9 Categorize food items by their collective noun
7. Unit 3 Write an album review	22. Unit 10 Describe the effects of natural disasters
8. Unit 4 Describe your favorite way to travel	23. Unit 10 Inform others about a city's extreme weather
9. Unit 4 Write a travel itinerary	24. Unit 11 Characterize different art forms
10. Unit 5 Categorize different sections in a store	25. Unit 11 Create your own art exhibition
11. Unit 5 Describe product features	26. Unit 12 Label different household devices
12. Unit 6 Define different landforms	27. Unit 12 Design a smart home
13. Unit 6 Present information about a natural wonder	28. Review II
14. Review I	29. Course Review
15. Mid-Term report	30. Course summary

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

授業前には該当箇所の予習をして、授業終了後は学習した内容を復習して習熟に努めること。これらの学修に1時間を要する。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポート・小テストについては採点の上返却する。また、提出物等は講評し改善のためのアドバイスをを行う。

6. 授業における学修の到達目標

1. 英語の基本的な技能に習熟することによって、英語による意思の疎通を図ることができる。
2. 異文化について学び理解することによって、日常生活での自身の発想を広げ多角的なものの見方を身に付けることができる。

7. 成績評価の方法・基準

試験とレポート（50%）、提出物・小テスト・授業の参加度・積極性（50%）を総合して評価する。

8. テキスト・参考文献

角山輝彦/Live ABC editors 著, 『Live Horizons Book2』成美堂（2026）

9. 受講上の留意事項

英語をわかりやすく基礎から段階を踏んで授業を行うので、英語に自信がなくても安心して受講してほしい。授業には辞書または電子辞書を持参すること。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

選択英語B(3)		講義	講師 松本 秀樹
科目カテゴリ	スポーツマネジメントコースの必修科目、スポーツトレーナーコースの必修科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの教養選択科目	科目ナンバリング	11110202 12210202 13210202

1. 授業のねらい・概要

選択英語A(3)を継続・発展させた内容とする。

英語の4技能を使ったコミュニケーションに習熟することによって、様々な背景をもつ人々とも自然と交流し意思疎通がはかれるようになることをねらいとする。教材に登場する同世代の人物から英語圏各地の文化、風土とともに彼ら自身の現在の姿や将来のビジョンを知り、学生自身の将来像を考える機会とする。日頃の生活や将来の仕事の場面においても英語でコミュニケーションを取ろうとする態度が身に付くように具体的な場面を設定して生きた英語に慣れ親しみながら学べるようにする。また、異文化を理解し自身の発想を広げ、多角的に物事を見て考える姿勢を身に付ける。

2. 授業の進め方

2コマで1ユニット進むこととする。ユニットの前半は、トピックに関する内容についてウォーミングアップを行い、関連する語彙や表現を学ぶ。その後トピックについて動画により学習し、内容の要点を捉えた上でコミュニケーション活動に習熟し英語運用能力を高めるとともに、異文化理解を通して世界の中の自分を意識する機会とする。ユニットの後半は、英語圏に住む同世代のインタビューを視聴してリスニングやリーディングを行い英語の実践的総合力を向上させるとともに、文化・習慣についての理解を深め学生自身の将来像を考える機会を設定する。

3. 授業計画

1. Course orientation and overview	16. Unit 8 South Africa Introduction
2. Unit 1 New York Introduction	17. Unit 8 The Rainbow Nation
3. Unit 1 The City That Never Sleeps	18. Unit 9 South Africa Documentary
4. Unit 2 New York Documentary	19. Unit 9 Life Is a Gift
5. Unit 2 A Passion for Hip Hop	20. Unit 10 Wales Introduction
6. Unit 3 Australia Introduction	21. Unit 10 A Small Country with a Big History
7. Unit 3 The Unique Continent	22. Unit 11 Wales Documentary
8. Unit 4 Australia Documentary	23. Unit 11. Enjoying New Experiences
9. Unit 4 A Girl with Big Dreams and High Hope	24. Unit 12 India Introduction
10. Unit 5 Northern Ireland Introduction	25. Unit 12 A Lively Country of Colors and Contrasts
11. Unit 5 A Country with Old History and Unique Nature	26. Unit 13 India Documentary
12. Unit 6 Northern Ireland Documentary	27. Unit 13 The Most Important Things in My Life
13. Unit 6 More Than Meets the Eye	28. Review Section II
14. Unit 7 Review Section I	29. Course Review
15. Mid-Term report	30. Course Summary

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

授業前には該当箇所の予習をして、授業終了後は学習した内容を復習して習熟に努めること。これらの学修に1時間を要する。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポート・小テストについては採点の上返却する。また、レポートは講評し改善のためのアドバイスをを行う。

6. 授業における学修の到達目標

1. 英語の基本的な技能に習熟することによって、英語による意思の疎通を図ることができる。
2. 異文化について学び理解することによって、日常生活での自身の発想を広げ多角的なものの見方を身に付けることができる。

7. 成績評価の方法・基準

試験とレポート（50%）、提出物・小テスト・授業の参加度・積極性（50%）を総合して評価する。

8. テキスト・参考文献

森田彰, Bill Benfield 他 著, 『World Wide English Volume 2 世界で輝く若者たちの英語2』成美堂（2016）

9. 受講上の留意事項

英語をわかりやすく基礎から段階を踏んで授業を行うので、英語に自信がなくても安心して受講してほしい。授業には辞書または電子辞書を持参すること。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

選択英語 B (3)		講義	講師 村元 エリカ マリア	
科目カテゴリ	スポーツマネジメントコースの必修科目、スポーツトレーナーコースの必修科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの教養選択科目	科目ナンバリング	11110202 12210202 13210201	

1. 授業のねらい・概要

本コースでは、この分野の新たな知識を身につけ、興味に応じた言語的・文化的なトピックスを探求し、現代社会において有用となるグローバルな思考力を養います。

2. 授業の進め方

選択英語 B は、アクティブ・ラーニングを取り入れ、学生が実践的な問題解決能力を養うことを目指します。具体的には、PBL（課題解決型学習）、調査学習、グループワーク、プレゼンテーション、リフレクションを行い、学生はグループで協力して興味のあるテーマに関連する問題を調査し、アイデアを出し合い、解決策を見つけます。英語のスキルについて心配せず、挑戦し、間違いから学び、グループで成長することが大切です。

3. 授業計画

- 第1回 Welcome: Introduction to the Course and Participants / Course Orientation
- 第2回 Syllabus Overview / General Tasks
- 第3回 Topic 8: Embracing Diversity and Knowledge Sharing: Learning Through Global Topics (pp. 1 - 4)
- 第4回 What You Will Learn & Make Groups (pp. 5-10)
- 第5回 Parts of Research & Part 1 - Research Topic (pp. 11-15)
- 第6回 Sources and References - Research Skills (pp. 16-18)
- 第7回 Part 2 - Reason for Interest (pp. 19-21)
- 第8回 Part 3 - Views from Japan (pp. 22-25)
- 第9回 Part 4 - Country Description and Language (pp. 26-32)
- 第10回 Part 5 - Communities in Japan & Interview (pp. 33-38)
- 第11回 Part 6 - Views from your group's selected country (pp. 39-43)
- 第12回 Part 7 - Partnership and Actions (pp. 44-48)
- 第13回 Part 8 - Comparison (pp. 49-53)
- 第14回 Part 9 - Japanese Professional (pp. 54-56)
- 第15回 Citation and Academic Integrity (pp. 57-59)
- 第16回 Preparation for Group Presentation - Selecting Slide Software (pp. 60-62)
- 第17回 Preparation for Group Presentation - Dividing Tasks and Designing the Presentation (pp. 63-70)
- 第18回 Presentation Requirements (p. 71)
- 第19回 Presentation Requirements - Greetings and Quiz (pp. 72-73)
- 第20回 Presentation Requirements - Speaking Notes (pp. 74-75)
- 第21回 Presentation Requirements - Preparation for Q&A (pp. 76-79)
- 第22回 Practice and Presentation (pp. 80-82)
- 第23回 Presentation Evaluation Process (pp. 83-85)
- 第24回 Presentation – Day 1
- 第25回 Presentation – Day 2
- 第26回 Presentation – Day 3
- 第27回 Presentation – Day 4
- 第28回 Presentation – Day 5
- 第29回 Can-Do Questions (p. 86)
- 第30回 Research Report Writing / Pick Up Loose Ends / Review Course

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

後期週2回型。遅刻・欠席しない様に、積極的に参加してください。授業で配布された詳細日程表に基づいて、次の講義で学習する範囲を予習してくる。自主的に課題を進めてください。なお、これらの準備学修には、プレゼンテーション用スライドおよびスピーキングノートの準備、ならびに他の受講生の発表に関するリフレクションペーパーの作成を含め、1時間以上が必要である。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

教科書課題または授業外課題はすべて授業中に確認する。プレゼンテーションの講評を行う。筆記試験は採点し、返却する。

6. 授業における学修の到達目標

- 一般教養および専門科目に必要な英語の4技能（リスニング、スピーキング、リーディング、ライティング）を効果的に使える能力を示すことができる。
- 世界中の多様な言語的・文化的文脈を探究することができる。
- 英語の実践を通して、異なる文化や社会と自身を結びつけ、多様性について考察することができる。
- 英語で、自分の考えを口頭および文章で表現することができる。

7. 成績評価の方法・基準

このコースに合格するためには、60%の合格点を取得する必要があります。評価は以下の通りです。

- (20%) リフレクションペーパー（コメント用紙）
- (20%) 課題(教科書課題および/または授業外課題)
- (40%) プレゼンテーション
- (20%) 自己評価・レポート

8. テキスト・参考文献

教科書： 指定しない。

参考資料： 授業内で配布する資料を使用する。

9. 受講上の留意事項

授業には、配布資料／ハンドアウト、パソコンまたはタブレット、英和・和英辞書（電子辞書を含む）を持参すること。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

選択英語B(4)		講義	非常勤講師 佐野 敏之	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの必修科目、スポーツトレーナーコースの必修科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの教養選択科目	科目ナンバリング	11110202 12210202 13210202	

1. 授業のねらい・概要

『選択英語A(4)』の継続との位置づけです。英語を聞き、話し、読み、書く総合的能力の向上を図り、英語への苦手意識を無くし、相手に臆せず円滑なコミュニケーションが取れるよう英語に親しみ慣れることをねらいとします。様々な場面での会話や、日本とは異なる視点から書かれた文書講読を通じて、異文化多様性に触れる機会を得ることで視野を広げることにもつながります。

2. 授業の進め方

4コマで1ユニットを構成します。ユニットの内容は、1. 語彙と会話リスニング、2. 様々な表現によるスピーキング、3. 文法と練習問題、4. 読解と作文です。まず基本的表現を習得した上で、自分自身に置き換えた会話を学生同士のロールプレイも交えて体得します。次に、様々な状況を想定し、臨機応変に対応できる実践的なコミュニケーションスキルを養います。読解は、速読の訓練と文法を介した熟読の両面から、文章の内容・意図を迅速かつ正確に把握する力をつけます。

3. 授業計画

1. Review of the 1st Semester and Goal-Setting	16. Unit 11:過去進行形
2. Unit 8:The Big Screen	17. Unit 11:Sports Hero
3. Unit 8:Apologizing / Talking about Movies	18. Unit 12:Rain or Shine
4. Unit 8:時刻表現	19. Unit 12:Describing Weather Conditions
5. Unit 8:The Wildest Job in Movies	20. Unit 12:単純未来形
6. Unit 9:How Do You Feel?	21. Unit 12:Safe at Home
7. Unit 9:Talking to People with Different Feelings	22. Unit 13:Eating Out
8. Unit 9:分詞形容詞 -ing, -ed	23. Unit 13:Ordering a Meal
9. Unit 9:Do Animals Have Feelings?	24. Unit 13:不定代名詞
10. Unit 10:All in Good Fun	25. Unit 13:Going to Restaurants around the World
11. Unit 10:Talking about Likes and Dislikes	26. Unit 14:School Life
12. Unit 10:動名詞・不定詞	27. Unit 14:Discussing Problems / Stating Your Goals
13. Unit 10:Make Your Life More Extreme	28. Unit 14:現在完了形
14. Unit 11:Game Time	29. Unit 14:Working for No Money
15. Unit 11:Talking about Injuries	30. Class Survey and Review of the Course

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

事前にテキストのレッスン該当箇所を自習用オンライン音源で聴くなどして、テキストの空欄を埋め、質問事項にも回答しておくこと（必要時間 30 分程度）。授業後はオンライン音源を使用するなどして、学習箇所を一通り復習すること（必要時間 20 分程度）。“毎日” 英語に接することが確実な習得につながります。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験実施後、授業内ないしはオンラインにて、回答、解説、講評をフィードバックします。

6. 授業における学修の到達目標

基本的な会話表現を身につけることで、相手に臆することなく英語で日常生活上最低限必要なコミュニケーションが取れるようにします。

7. 成績評価の方法・基準

授業への取り組み姿勢・小テスト・課題（50%）、期末試験・課題（50%）に基づいて評価します。

8. テキスト・参考文献

テキスト：角山照彦他著『4技能を高める英語演習 Book1 New Connection Book 1』（成美堂 2022）

9. 受講上の留意事項

受講者の習熟度に応じた分かりやすい説明，段階を踏んだ指導に努めますので，特に，英語に苦手意識を持っている学生，あるいはもう一度基本から学び直したい学生に参加してほしい。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当します。本授業は，金融機関，サービス業界における実務経験を活かして指導します。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

選択中国語 A

2 0 2 6 年度

休講

選択中国語 B

2 0 2 6 年度

休講

スポーツ実技（体づくり運動）		実習	准教授 諏訪 利成
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの専門 選択科目、スポーツトレーナーコー スの専門選択科目 教職科目 柔道整復師コースの教養選択科目 教職科目 救急救命士コースの教養選択科目 教職科目	科目ナンバリング	11322103 11531101 12220105 12531101 13220106 13531101

1. 授業のねらい・概要

「体づくり運動」は、自己の体力や生活に応じて、体の調子を整えるなどの体ほぐしをしたり、体力を高めたりすることとをねらいとして行われる運動のことであり、全面的な体づくりを配慮しながら、個に応じた体づくりを行うとともに、「体ほぐし運動」や「体力を高める運動」の実践・指導ができる能力を身に付けることを目的とする。

2. 授業の進め方

実技を中心に行う。運動の課題によって個人、グループ、全員で取り組み、互いに協力し安全に、しかも楽しみながら運動ができるようにすすめて行く。

3. 授業計画

1. ガイダンス(教室にて) 2. 「体づくり運動」とは 3. 「体ほぐしの運動」ストレッチ 4. 「体ほぐしの運動」器具を用いない運動 5. 「体ほぐしの運動」縄跳び 6. 「体ほぐしの運動」器具を用いた運動 7. 「体ほぐしの運動」マット運動 8. 「体力を高める運動」全身持久力を高める運動	9. 「体力を高める運動」筋力を高める運動 10. 「体力を高める運動」スピードを高める運動 11. 「体力を高める運動」柔軟性を高める運動 12. 「体力を高める運動」瞬発力を高める運動 13. 「体力を高める運動」調整力を高める運動 14. 総合体力を高める運動①（サーキット運動） 15. 総合体力を高める運動②（球技）
---	---

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

日頃から 20 分間ほど適度な運動をし、体の調子を整えておく。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業最終日、各自に対応する。

6. 授業における学修の到達目標

個々の体力の向上を目的とし、実践した内容を自身以外の相手へ指導できるようになること。

7. 成績評価の方法・基準

授業への取組姿勢や参加態度などの平常点（100％）で評価する。

8. テキスト・参考文献

随時指示する。

9. 受講上の留意事項

授業の目的を認識し、運動にふさわしい服装で出席すること。慢性的な疾病もしくは障害によって実技部分の受講に不安のある学生は事前に申し出ること。人数が多い場合は調整することもある。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無
該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連
上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

スポーツ実技（器械運動） (1) (2)		実技	非常勤講師 相原 誠	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの専門 選択科目、スポーツトレーナーコースの専門選択科目 教職科目 柔道整復師コースの専門選択科目 教職科目 救急救命士コースの専門選択科目 教職科目	科目ナンバリング	11322102 11531102 12220104 12531102 13220107 13531102	

1. 授業のねらい・概要

器械運動器具（マット・跳び箱・鉄棒など）を使用して、『使い方、技の方法ならびに指導法』を習得することを目的とし、個人レベルでも、洗練された運動を努力や工夫によってできるようにする。また実技中における安全確保を最優先に考えながらも創意工夫された練習・態度を身につけると同時に教育者としての意識を高め、常に邁進向上に努める。

2. 授業の進め方

毎時間、試験内容の技の練習を段階的に行ない習得することを目的とする。
また、その為の基本の体創り運動も取得する。

3. 授業計画

1. オリエンテーション：器械運動の説明 （目的・方法・授業計画・評価法及び諸注意） 意識づけ 2. 準備運動①：器具を使わないマット、跳び箱、鉄棒の導入 3. 準備運動②：倒立等の自分自身の体重を保持する 4. 鉄棒①：鉄棒を使った準備運動 5. 鉄棒②：上がり（逆上がり）中技（前方支持回転、後方支持回転） 6. 鉄棒③：上がり、中技の復習 下り技（横飛び越し下り） 7. マット①：マットを使った準備運動	8. マット②：前転、後転、側転 9. マット③：倒立前転、伸膝前転 10. 跳び箱①：跳び箱を使った準備運動 11. 跳び箱②：開脚とび 12. 跳び箱③：台上前転 13. 試験用、規定演技の練習 14. 練習のまとめ 15. まとめと復習
--	--

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

柔軟 日頃から 15 分間ほど柔軟を行い、ケガの予防に努める。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回の授業の中で、段階を追ったポイントを都度説明。
試験終了時に採用試験を見据えて、注意点や改善点を伝える。

6. 授業における学修の到達目標

各種目別の準備運動の組み立て。各種目別の技習得への段階的な器具セッティング。
各技目標の達成。

7. 成績評価の方法・基準

各項目となる運動（マット運動・跳び箱運動・鉄棒運動）の試験結果（20%）・授業態度（80%）で総合的に評価する。

8. テキスト・参考文献

特になし。

9. 受講上の留意事項

受講（運動）するにふさわしい服装及び態度。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本講義は、体操クラブでの指導経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連
上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

スポーツ実技（陸上競技）		実習	准教授 諏訪 利成
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの専門選択科目、 スポーツトレーナーコースの専門選択科目 教職科目 柔道整復師コースの教養選択科目 教職科目 救急救命士コースの教養選択科目 教職科目	科目ナンバリング	11322101 11531103 12220103 12531103 13220108 13531103

1. 授業のねらい・概要

多くのスポーツの原点と言える陸上競技について、基礎技術および指導法の習得を目指す。また、正しいランニング技術、トレーニング方法を学ぶことで、スポーツの素晴らしさを伝えられる指導者の育成を目的とする。

2. 授業の進め方

授業は実技を中心に屋外グラウンド、または体育館で行うが、技術理解を深めるために講義を行う場合もある。

3. 授業計画

1. ガイダンス～本講義の概要説明(教室にて) 2. ウォーミングアップの方法、ストレッチ 3. ランニング～基礎知識とランニングフォーム 4. ランニング～効率的走法の習得 5. 短距離走の技術～スタート準備と姿勢 6. 短距離走の技術～中間走の動きとゴール 7. 跳躍種目の技術～幅跳び 8. 跳躍種目の技術～高跳び	9. ハードル種目の技術～歩幅と抜き足技術 10. ハードル種目の技術～タイムトライアル 11. 投てき種目の技術～砲丸・ハンマー 12. 投てき種目の技術～やり・円盤 13. リレー種目の技術 14. 長距離種目の技術 15. まとめ
---	--

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

日頃から20分間ほど適度な運動を行っておく。また、実技内容をイメージできるよう写真やビデオ等で30分間ほどかけて事前に確認しておくことが望ましい。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業最終日、各自に対応する。

6. 授業における学修の到達目標

陸上競技の指導者として正しい知識を身につけて、指導現場で活かせるようにする。

7. 成績評価の方法・基準

求められる実技がしっかり行えるか（50%）、また積極的に参加できているか（50%）を見て評価する。

8. テキスト・参考文献

随時指示する。

9. 受講上の留意事項

実技を行う際には、運動に適した服装で参加すること。受講希望者が多い場合、人数制限を行う場合がある。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

スポーツ実技（水泳）		実習	非常勤講師 野村 孝路
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコース、スポーツトレーナーコースの専門選択科目 教職科目 柔道整復師コースの教養選択科目 教職科目 救急救命士コースの教養選択科目 教職科目	科目ナンバリング	11322110 11531104 12220112 12531104 13220109 13531104

1. 授業のねらい・概要

幼児から高齢者まで幅広い年齢で楽しめる水泳の特性にふれることで、水泳指導員の養成を目的とした（財）日本水泳連盟アシスタント指導員資格検定試験に基づく、資質・知識・技術の習得を図る。

そのため、水泳指導に必要な基礎・応用・実践技術・補助技術を身につけ、初心者指導法および各種泳法（バタフライ・背泳ぎ・平泳ぎ・クロール）、さらに救助法・救急法を理解し現場における救急処置が行なえる技量を身につける。

2. 授業の進め方

教本の内容に沿った泳法指導を基本とするが、随時、泳力別にグループ分けし個別的な課題を明確にし、具体的な出練習法・指導法を取り上げて実践的なポイントを説明し練習する。また、理解の定着を図るため、実技問題および関心意欲・態度を促す所感を筆記させる課題を課すこととする。

3. 授業計画

1. 水泳概説 水慣れ、呼吸法、バランスの習得	7. 背泳ぎの初歩技術の習得
2. 初心者指導法 エレメンタリー泳法および補助技術の習得	8. 背泳ぎの技術の応用（スタート、ターン）
3. クロール初歩技術の習得と指導法	9. バタフライの初歩技術の習得
4. クロール技術の応用（スピードの上げ方、スタート、ターン）	10. バタフライの技術の応用（スタート、ターン）
5. 平泳ぎの初歩技術の習得と指導法	11. 救助技術の習得（横泳ぎ、潜行）
6. 平泳ぎの技術の応用（遠泳、スピードの上げ方、スタート、ターン）	12. 蘇生法の習得
	13. 泳法指導の実際
	14. 50m個人泳法測定
	15. まとめ

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の授業を受講し、実技指導のポイントの配布資料を復習しておく。そのためには30分程度が必要である。さらに、実技内容を毎回の授業で実践し、改善していく。これらの実技習得には、毎回の授業前後に20分程度の陸での実技練習を行う。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

実技試験や机上試験の実施の際、解答のポイントおよび評価の観点を終了直後に説明する。

6. 授業における学修の到達目標

水泳の競技特性の基本的な概要を理解して、現場での初心者指導が理論的に組み立てられ、安全かつ効果的に進めることができる。また本授業を通じて将来スポーツの指導者となれるよう資質向上に務める意欲を育む。

7. 成績評価の方法・基準

授業への取組み姿勢（50%）および実技テストおよびペーパーテストの結果（50%）によって、評価する。

8. テキスト・参考文献

テキストは、財団法人日本水泳連盟編 競技力向上指導者用『水泳教師教本教本』大修館書店をベースに毎回の授業を組み立てている。また、参考文献は適宜紹介する。

9. 受講上の留意事項

受講の要件としては、受講生の健康診断や既往症を把握していることが重要である。水泳経験があることが望ましいが、そうでない場合も、理解でき、実践できるように授業を個別に対応し進めていく。疑問や不明な点については、遠慮なく質問してもらいたい。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は、学校及び地域スポーツ活動における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

スポーツ実技(水難救助)		実習	准教授 古川 慎太郎 助教 水上 治彦 非常勤講師 廣田 恵典	
科目カテゴリー	救急救命士コースの教養選択科目	科目ナンバリング	13220110	

1. 授業のねらい・概要

水難事故の危険性を正しく理解し、特に、静水域（プール）における危険予測、自己防衛法（セルフレスキュー）、救助方法（バースタンダーレスキュー）を理解・習得し、他機関との連携要領を理解する。初歩的な安全管理知識・技術、救助知識・技術の修得を図る。

2. 授業の進め方

各種泳法の修得、各種救助法の修得、各種処置要領の修得のための座学を行い、プール環境にて実技を行う。

3. 授業計画

1. 水難事故総論 水難救助実習の目的、水難事故概要、件数、要因、バディシステムについて 2. 水難事故におけるチェンオブサバイバル 予防、早期通報、救助、一次救命処置、二次救命処置 3. 公的機関による水難救助について クロール・平泳ぎについて 4. 基本泳法 背泳ぎ、エレメンタリーバックストロークについて 5. セルフレスキュー サバイバルフローティング、背浮きについて 6. セルフレスキュー スカーリング、立ち泳ぎについて 7. 着衣泳法・PFD 着脱要領 8. バースタンダーレスキュー レベル1要領について、リーチングアシスト、スローイングアシスト	9. バースタンダーレスキュー レベル2要領について、入水法、水中歩行 10. 水中での頸椎保護 スパイナルケア：EAR、バースグリップ 11. 陸上及び水中での頸椎保護 受傷機転の確認、全身固定 12. 搬送要領 1人法による搬送、複数人による搬送方法 13. 基本泳法実技試験 各種目 50m 完泳(クロール、背泳ぎ、平泳ぎ、エレメンタリーバックストローク) 14. セルフレスキュー セルフレスキュー(サバイバルフローティング、背浮き、スカーリング、立ち泳ぎ)5分間 実技試験 15. 総合想定訓練・筆記試験 第1回～15回の総復習をシミュレーション演習でまとめる
--	--

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

適宜提示する事項に関する事前学習、授業内容の振り返り、資料整理、自主練習等を行う必要があり、各授業につき30分～90分程度を要する。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

口頭や資料提示等により、個別または授業中の講義を通じて行う。

6. 授業における学修の到達目標

- 1) 水難救助活動における安全管理の重要性について理解を深める。
- 2) 静水域（プール）での救助活動を行う上で、必要となる基礎知識・技術を身に付ける。

7. 成績評価の方法・基準

3分の1を超える欠席は、単位を与えない。

授業後に提出する実習ノートおよび授業における活動状況により評価する。(100%)

なお、活動状況は、出席状況・授業態度・積極性・協調性・判断力・行動力等を踏まえて総合的に評価する。

8. テキスト・参考文献

改訂第 11 版 救急救命士標準テキスト(へるす出版)

水上安全法教本(日本赤十字社)

適宜指定する資料

9. 受講上の留意事項

- 1) 安全管理の徹底を要する実技項目があるため、教員の指示に従って統率の取れた行動がとれる学生のみが受講すること。
- 2) 取り組み姿勢が著しく消極的であると認められた場合など、授業の進行に問題がある学生には教員が注意を行い、これを是正しない場合は、当該授業を欠席扱いとする。
- 3) 以下に該当する場合は、当日授業を欠席扱いとする。
 - a) 実習に相応しい身だしなみ(アイロンがけした制服、黒色または紺色の T シャツ、黒色または紺色の靴下、汚れていない内履、及び名札の着用)が履行できない場合。
 - b) 長い爪、髭、過度に明るく染色した頭髮、アクセサリーの着用等、社会通念上医療従事者として活動に従事する上で、相応しくないと認められる場合。
 - c) 使用するテキストや資料、個人資器材、その他授業に持参するよう指示した物品を忘れた場合。
 - d) スマートフォンなど音の出る電子機器については、電源を切ることを原則とし、これに従わない場合。
 - e) 居眠りや落ち着きのない言動等、授業の円滑な進行を妨げると教員が判断した場合。
 - f) 授業開始 10 分前までに事前連絡がない遅刻、及び 30 分以上の遅刻。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当有無

該当する。本授業は、公的機関等における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

スポーツ実技(河川救助)		実習	准教授 古川 慎太郎 助教 水上 治彦 非常勤講師 廣田 恵典	
科目カテゴリー	救急救命士コースの教養選択科目	科目ナンバリング	13220202	

1. 授業のねらい・概要

水難事故の危険性を正しく理解し、特に、河川（流水域・氾濫域）における初歩的な安全管理知識・技術、救助知識・技術の修得をはかる。

2. 授業の進め方

基礎知識を修得するための座学，河川域における救助実技を中心とした授業展開を行う。

3. 授業計画

1. ガイダンス（授業の進め方）	8. 実技①（PPE の着脱・ゾーニング）
2. 河川救助概論（基本的な考え方）	9. 実技②（フェリーアングルと泳法）
3. 流体力学	10. 実技③（スローバッグ）
4. 安全管理の基本	11. 実技④（浅瀬横断）
5. 流水救助の基本	12. 実技⑤（テンションダイアゴナルライン）
6. グループ討議（事例検討：河川増水）	13. 実技⑥（想定訓練）
7. グループ討議（事例検討：河川氾濫）	14. グループワーク（河川救助をめぐる課題の検討）
	15. 総括

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

適宜提示する事項に関する事前学習，授業内容の振り返り，資料整理，自主練習等を行う必要があり，各授業につき30分～90分程度を要する。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

口頭や資料提示等により，個別または授業中の講義を通じて行う。

6. 授業における学修の到達目標

- 1) 水難救助活動における安全管理の重要性について理解を深める。
- 2) 河川救助活動を行う上で必要となる基礎知識・技術を身に付ける。

7. 成績評価の方法・基準

3分の1を超える欠席は、単位を与えない。

授業後に提出する実習ノートおよび授業における活動状況により評価する。（100％）

なお、活動状況は、出席状況・授業態度・積極性・協調性・判断力・行動力等を踏まえて総合的に評価する。

8. テキスト・参考文献

改訂第11版 救急救命士標準テキスト（へるす出版）

適宜指定する資料

9. 受講上の留意事項

- 1) 安全管理の徹底を要する実技項目があるため，教員の指示に従って統率の取れた行動がとれる学生のみが受講すること。
- 2) 取り組み姿勢が著しく消極的であると認められた場合など，授業の進行に問題がある学生には教員が注意を行い，これを是正しない場合は，当該授業を欠席扱いとする。

3) 以下に該当する場合は、当日授業を欠席扱いとする。

- a) 実習に相応しい身だしなみ（アイロンがけした制服，黒色または紺色の T シャツ，黒色または紺色の靴下，汚れていない内履，及び名札の着用）が履行できない場合。
- b) 長い爪，髭，過度に明るく染色した頭髮，アクセサリーの着用等，社会通念上医療従事者として活動に従事する上で，相応しくないと認められる場合。
- c) 使用するテキストや資料，個人資器材，その他授業に持参するよう指示した物品を忘れた場合。
- d) スマートフォンなど音の出る電子機器については，電源を切ることを原則とし，これに従わない場合。
- e) 居眠りや落ち着きのない言動等，授業の円滑な進行を妨げると教員が判断した場合。
- f) 授業開始 10 分前までに事前連絡がない遅刻，及び 30 分以上の遅刻。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当有無

該当する。本授業は，公的機関等における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

スポーツ実技(バスケットボール) (1) (2)		実習	非常勤講師 棟方 公寿
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの専門 選択科目、スポーツトレーナーコースの専門選択科目 教職科目 柔道整復師コースの教養選択科目 教職科目 救急救命士コースの教養選択科目 教職科目	科目ナンバリング	11322106 11532101 12220108 12532101 13220111 13532101

1. 授業のねらい・概要

バスケットボールを通じて個々の運動能力，体力の向上を目指し，またチームの一員としてどのように役割を果たし，貢献できるかを考えることで，自己の責任とコミュニケーション能力の向上を目指す。さらに，教員を志望する学生は指導法を考えながら実施することを目指す。

2. 授業の進め方

基礎的なスキル練習を行ないながら，1on1，2on2，3on3，4on4 などを経て，5on5 のゲームへと発展させる。

3. 授業計画

1. ガイダンス (バスケットボールの概論) 2. 導入(設備・用具・準備運動「ドリブルレイアップシュート」・5on5) 3. 準備運動、ファンダメンタル(ドリブルの基本的な考え方⇒2 ボールドリブル) 4. 準備運動、ファンダメンタル(ドリブルのタイプ⇒1 ボールドリブル ZigZag) 5. 準備運動、ファンダメンタル(パスの基礎知識・パスの種類・キャッチ) 6. 準備運動、1on1 の技術と戦術(オフェンス) 7. 準備運動、1on1 の技術と戦術(ディフェンス)	8. 準備運動、基本的スキル 5on5 (Off・Def の基本) 9. 準備運動、パス&ラン⇒2 メンカッティングムーブとスクリーンプレイ 10. 準備運動、基礎的スキル 2on2⇒5on5 (ハーフコート) 11. 準備運動、基礎的スキル 3on3⇒5on5 (ハーフコート) 12. 準備運動、基礎的スキル 4on4⇒5on5 (ハーフコート) 13. 準備運動、5on5 (ゲームの進め方) 14. 準備運動、5on5 (ゲームを楽しむ) 15. 準備運動、5on5 (ゲームとまとめ)
---	--

4. 準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

バスケットボールの最新ルールを事前に調べ，ある程度理解しておくこと(1時間)。個人のスキルに関して，可能な範囲で繰り返し練習をしておくこと。

5. 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業ごとにその日の練習のテーマに関して質問，感想，意見等を聞き，回答する。

6. 授業における学修の到達目標

バスケットボールの基礎技術を身につけること。また，教員志望者は授業の展開の仕方，注意する点などを学び，教育実習に活かせるよう自分の指導法の選択肢を増やすことを目的とする。

7. 成績評価の方法・基準

積極性などの平常点 (60%)，意欲態度 (20%)，知識技量 (20%)。

8. テキスト・参考文献

特になし。必要があれば授業中に紹介，またはプリントを配布することがある。

9. 受講上の留意事項

バスケットボールは比較的激しいスポーツであり、ダッシュやジャンプを繰り返すため、服装はスポーツに適したものを着用し、シューズも可能な限り、衝撃を吸収する素材のものを使用すること。Gパンやチノパンなど、また外履きシューズの使用は認めない。Tシャツ、ジャージ等スポーツにふさわしい服装で臨むこと。

さらに、爪は短く切り、ネックレス、ピアス等は、危険なので外すこと。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

スポーツ実技（サッカーA） 【スポーツ実技（サッカー）】		実習	准教授 山口 重信	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの専門 選択科目	科目ナンバリング	11322104	
	スポーツトレーナーコースの専門選 択科目		11322104	
	教職科目		11532102	
	柔道整復師コースの教養選択科目		12220106	
	教職科目		11532102	
	救急救命士コースの教養選択科目		13220112	
	教職科目		13532102	

1. 授業のねらい・概要

本科目は、サッカーの基本的なルールや基礎技術を学び、試合形式のゲームを通じてサッカーの魅力、楽しさを体験する。仲間とともにゴールや勝利の喜びを体感する。また、この授業を通して体力の増進を図る。

2. 授業の進め方

初心者、経験者を問わずサッカーのルール・基本技術の習得と様々な形の試合形式を中心に行う。

雨天時は教室においてビデオを使用して、ルールの確認や海外の試合を見る。

3. 授業計画

1. ガイダンス	9. 対人プレー クワトロゲーム
2. 基本技術の習得（パス、ボールコントロール）	10. 対人プレー 7対7
3. 基本技術の習得（ドリブル）	11. ゴール前の攻防
4. 基本技術の習得（様々なキックの種類）	12. 試合11対11 セットプレーの攻撃
5. アイスブレイクの実践	13. 試合11対11 セットプレーの守備
6. 対人プレー 1対1	14. 試合11対11 主審・副審の実践
7. 対人プレー 3対1	15. まとめ
8. 対人プレー 4対2	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

Jリーグや海外の試合を見ることでサッカーの技術・戦術の魅力を感じて欲しい、グラウンドレベルで再現できるかは別として真似をしてみようとイメージをつくる。当然、サッカーの1試合（90分）を通して見る。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業中のプレーに対して留意点を指摘する。また、素晴らしいプレーに関しては褒める声掛けをしてモチベーションを上げる。

6. 授業における学修の到達目標

サッカー観戦およびサッカーの試合を行うとき、指導を行うときにルールを十分に理解してサッカーを楽しむことが出来る。対戦相手、レフリー、チームメイトをリスペクトしてトレーニングや試合を行うことができる。

7. 成績評価の方法・基準

授業の取り組み、技術、戦術の理解度（50%）。定期的に試験（リフティング等の技術）を行い、上達度を加味して（30%）講義への参加意欲（20%）で評価する。

8. テキスト・参考文献

サッカー競技規則と実践的審判法（公益財団法人 日本サッカー協会審判委員会 制作）

9. 受講上の留意事項

実技の際は、運動に適した服装・シューズで参加すること。また、時計・装飾品（ネックレス、ピアス、指輪）は外して参加すること、自分や他の人を傷つける可能性があるため。

運動に適さない服装で出席した場合は、授業の参加を認めない場合もある。

怪我をしていて参加できないときは怪我の状況を伝えて見学をすること。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

スポーツ実技(テニス) (1) (2) (3)		実習	教授 大森 肇 講師 成田 仁
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの専門選択科目、スポーツトレーナーコースの専門選択科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救命救急士コースの教養選択科目 教職科目	科目ナンバリング	11322107 11531105 12220109 12531105 13220113 13531105

1. 授業のねらい・概要

本授業は、スポーツ文化としてのテニスを生涯にわたって楽しむための基礎づくりをねらいとしている。そのために、1) テニスの用具、施設・設備、技術、関連体力、ルール、マナー、戦術などの基礎知識を学び、2) テニスを実践し、3) 学修の成果について考察することが求められる。

2. 授業の進め方

基礎的な技術の理解と反復練習により段階的にレベルを上げ、ゲームへと発展させながらルール・マナーも身につける。

3. 授業計画

1. 知識（コート、ラケット、グリップ）、ラケットワーク	9. スマッシュ導入（素振り、ヒット）
2. フォアストローク（素振り、ショートラリー）	10. ダブルスゲーム導入（ルール、進行、マナー）
3. フォア&バックストローク（素振り、ショートラリー）	11. ダブルスゲーム導入（戦術）
4. フォア&バックストロークを用いたロングラリー	12. ダブルスゲーム（班別対抗戦1）
5. シングルスゲーム導入（初級：ショート、中級：半面）	13. ダブルスゲーム（班別対抗戦2）
6. フォアボレー導入（キャッチ、手の平ボレー、短く持ってボレー）	14. ダブルスゲーム（班別対抗戦3）
7. フォア&バックボレー（交互にボレー、ボレー&ボレー）	15. ダブルスゲーム（班別対抗戦4）
8. サービス導入（キャッチボール、素振り、ヒット）	

4. 準備学修に必要な時間、又はそれに準じる程度の具体的な学習内容

本授業の内容を修得するためには段階的な積み重ねが大事である。授業後、当日中に授業内容を知識・実践・考察の観点で整理しておくこと。この事後学修には1時間程度が必要である。それが次回に向けての準備学修になる。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回の授業自体が発展的課題となっている。課題に対する成果について、授業内で全体的・個別的にフィードバックする。

6. 授業における学修の到達目標

1) テニスの用具、施設・設備、技術、体力、ルール、マナー、戦術などの基礎知識を学び、2) テニス実践を通して上達し、3) 学修の成果について考察することを目標とする。

7. 成績評価の方法・基準

意欲・態度（30%）、知識・理解（30%）、技術（40%）を総合的に評価する。

8. テキスト・参考文献

必要に応じて資料を配布する。

9. 受講上の留意事項

運動に適した服装とテニスシューズかそれに準ずる靴を用意する。コート面数の関係で受講人数の調整をする場合がある。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

日本テニス協会の1級公認指導員の資格を持ち、多数の民間テニスクールでの指導経験を有する教員がそのキャリアを活かして授業を実施する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

スポーツ実技(ダンス) (1) (2)		実技	非常勤講師 河野 さゆり	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの専門選択科目、 スポーツトレーナーコースの専門選択科目 教職科目 柔道整復師コースの教養選択科目 教職科目 救急救命士コースの教養選択科目 教職科目	科目ナンバリング	11322109 11531108 12220111 12531108 13220114 13531108	

1. 授業のねらい・概要

色々なジャンルの音楽に合わせて、身体を自由に表現する楽しさを体験する。
 ソロでは自己表現，グループでは協力しながら創作する経験を学んで欲しい。

2. 授業の進め方

実技を中心に進めていく。

3. 授業計画

1. ガイダンス 2. 基本の体づくり ストレッチ・アイソレーション 3. 基本の体づくり 体幹の使い方・基本のステップ 4. レクリエーションダンス 年代に合わせたダンスの基本（幼少年期） 5. レクリエーションダンス 年代に合わせたダンスの応用（幼少年期） 6. 現代的なリズムのダンス 基本の振りを習得 7. 現代的なリズムのダンス 自己表現の表し方 8. 現代的なリズムのダンス 規定演技の習得	9. エアロビクスエクササイズの基礎 基礎的なステップ 10. エアロビクスエクササイズの基礎 低強度のステップの実習と構成 11. エアロビクスエクササイズの基礎 中強度のステップの実習と構成 12. エアロビクスダンス チームエアロビックダンスの構成 13. エアロビクスダンス チームエアロビックダンス作品の編集 14. エアロビクスダンス チームエアロビックダンス作品の仕上げ 15. 作品発表の準備 規定演技とグループ作品の総仕上げ
---	--

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の授業を受講するまでに，前回の授業内容（振りや構成など）を必ず復習しておく。
 この準備学修には1時間程度が必要である。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験（作品発表）やレポート提出の際，評価のポイントを試験終了（レポート提出）直後に説明する。

6. 授業における学修の到達目標

正しい体の使い方や動き方を身に付けて，身体を自由に表現できるようになる。

7. 成績評価の方法・基準

授業への取り組み（50%），実技試験（30%），レポート（20%）によって評価する。

8. テキスト・参考文献

必要に応じて資料を配布する。

9. 受講上の留意事項

運動に適した服装で参加すること。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

スポーツ実技(スキー)

2026年度

休講

スポーツ実技(山岳救助)		実習	助教 水上 治彦 非常勤講師 廣田 恵典
科目カテゴリー	救急救命士コースの教養選択科目	科目ナンバリング	13220203

1. 授業のねらい・概要

本授業は日本国土の7割以上を占め、清流の生み、人の生活との深いかかわりを持つ山岳の環境学と、登山における行動学や医学的な観点を学び、山岳における初歩的な安全管理知識・技術、救助知識・技術の修得を図る。

2. 授業の進め方

基礎知識を修得するための座学、山岳環境における救助実技を中心とした授業展開を行う。

3. 授業計画

1. 山岳救助学総論 我が国の山岳環境の特徴、関係、事故について理解を深める。 2. 運動生理学 登山による呼吸系、循環、神経と筋・骨格などの生理学について理解を深める。 3. 動作論 歩く・跳ぶ・登る・下るといった登山動作について修得し、実践でも理解を深める。 4. 山岳心理論 山岳環境で起こる気象変化や体調変化による心理の変化を修得し、セルフメンタルケアも理解する。 5. リスク論 登山前や中に行われる「メディカルチェック」について修得し、山岳におけるセルフコントロールの理解を深める。 6. 山岳環境保全論 山岳の環境保全について修得し、人と環境の相互性について理解を深める。 7. 山岳環境適応論 山岳環境の生体影響について修得し、自然との環境適応について理解を深める。 8. 山岳行動論 登山・下山を行動学的な視点で動作的アプローチをし、行動評価の作成について理解を深める。	9. 山岳行動論 登山によるカロリー消費量について修得し、けがや事故を起こさない方法も理解する。 10. クライシス論 登山による疲労回復のための休憩について修得し、適切な方法や休憩時間について理解を深める。 11. エマージェンシー論 遭難時の適切な判断と行動について理解を深める。 12. 山岳救命学総論 登山中に発症する疾患と、主な原因について修得し、登山の可否助言、予防法や緊急搬送について理解を深める。 13. 山岳外傷論 登山中に起こる事故に伴う外傷について修得し、適切な予防法と対応法について理解を深める。 14. 山岳疾病論 登山で起こる疾患について修得し、適切な予防法、観察法と対応法について理解を深める。 15. 山岳特殊疾病論 山岳で起こる特殊疾患の特徴、原因、発症機序と症状について修得し、適切な観察法や対応方法について理解を深める。
--	--

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

適宜提示する事項に関する事前学習、授業内容の振り返り、資料整理、自主練習等を行う必要があり、各授業につき30分～90分程度を要する。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

口頭や資料提示等により、個別または授業中の講義を通じて行う。

6. 授業における学修の到達目標

- 1) 山岳救助活動における安全管理の重要性について理解を深める。
- 2) 山岳救助活動を行う上で必要となる基礎知識・技術を身に付ける。

7. 成績評価の方法・基準

平常点（50％）および授業で実施する想定訓練における活動状況（50％）により評価する。

なお、平常点は、授業態度・積極性・協調性・判断力・行動力等を踏まえて総合的に評価する。

8. テキスト・参考文献

改訂第 11 版 救急救命士標準テキスト(へるす出版)

適宜指定する資料

9. 受講上の留意事項

- 1) 安全管理の徹底を要する実技項目があるため、教員の指示に従って統率の取れた行動がとれる学生のみが受講すること。
- 2) 以下に該当する場合は、当日授業を欠席扱いとする。
 - a) 実習に相応しい身だしなみ（アイロンがけした制服，黒色または紺色の T シャツ，黒色または紺色の靴下，汚れていない内履，及び名札の着用）が履行できない場合。
 - b) 長い爪，髭，過度に明るく染色した頭髮，アクセサリーの着用等，社会通念上医療従事者として活動に従事する上で，相応しくないと認められる場合。
 - c) 使用するテキストや資料，個人資器材，その他授業に持参するよう指示した物品を忘れた場合。
 - d) スマートフォンなど音の出る電子機器については，電源を切ることを原則とし，これに従わない場合。
 - e) 居眠りや落ち着きのない言動等，授業の円滑な進行を妨げると教員が判断した場合。
 - f) 授業開始 10 分前までに事前連絡がない遅刻，及び 30 分以上の遅刻。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当有無

該当する。本授業は，公的機関における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

スポーツ実技（柔道）(1) (2)		実習	講師 小向 啓介
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの専門選択科目 スポーツトレーナーコースの専門選択科目 救急救命士コースの教養選択科目 教職科目 教職科目	科目ナンバリング	11322112 11322112 13220116 11531107 13531107

1. 授業のねらい・概要

大学における「スポーツ」はスポーツの実習とスポーツ科学の理論の学習を通して、自己のライフステージや心身の状態（健康、体力、運動能力）に適したスポーツを生活の中に取り入れ、豊かなライフスタイルを形成できる能力を目的としている。

柔道は日本を発祥とするオリンピック競技種目であり、健康と体力の維持、増進のための身体や運動に基礎的な理論と実践方法を身に着けることができる競技である。本講義では学科の特性を踏まえ、その精神、体力、歴史、礼法、基本動作、受身、投技、固技、乱取などを通して、中学・高等学校保健体育教育職員、柔道整復師になる上で必要な技能の習得をねらいとする。

2. 授業の進め方

授業の初回に発生する外傷について詳細に説明を行い、安全に柔道を行う意識を持ってもらう。授業の流れ・内容として、柔道着の着方と礼法の指導／柔道修行における受身の重要性の理解と実践：後方受身、側方受身、前方受身の学習～前方回転受身の学習／受身の復習ならびに受身の応用練習、足技、腰技、手技の学習と応用練習／固技：抑え技の学習と応用練習／などこれらを行う。尚、毎回の授業時に礼法の確認、準備運動、各種受身を必ず行い柔道精神の理解と外傷発生防止に努める。

3. 授業計画

1. ガイダンス（柔道の歴史、礼節、発生する外傷） 2. 柔道着の着用、礼法、受身（後受身、横受身） 3. 基本動作（受身：後受身・横受身・前回受身）、固技（袈裟固） 4. 基本動作（受身：前受身・前回受身）、固技（袈裟固、肩固） 5. 受身、基本動作（姿勢・組み方・進退動作・崩し方） 6. 受身、投技（背負投・体落・払腰） 7. 受身、投技（小内刈・大内刈・大外刈・出足払） 8. 投げ技の応用練習～立技の約束乱取	9. 固技の基本動作 10. 固技（袈裟固・肩固・横四方固）、投技復習 11. 受身、約束乱取 12. 受身、約束乱取（固技あり） 13. 礼法、受身、投技、固技の復習、約束乱取 14. 礼法、受身のテスト、固技、投技の総復習 15. 投技・固技のテスト、解説および再試験
--	--

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習として、「体育学習における武道」のうち、特にp7～26を読み、柔道指導について理解をしておくこと。実技前はストレッチなどの準備運動を全身に対して十分に行い、身体を柔軟に動かせるように準備をすること。

「体育学習における武道（文部科学省）」

https://www.mext.go.jp/component/a_menu/sports/detail/_icsFiles/afieldfile/2013/04/26/1333611_03_1.pdf

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

健康と体力の維持、増進のための身体や運動に基礎的な理論と実践方法を身に着けること。また、柔道精神、体力、歴史、礼法、基本動作、受身、立技、固技などの技能の習得を到達目標とする。さらに安全に対する意識を学び実践する。

6. 授業における学修の到達目標

健康と体力の維持，増進のための身体や運動に基礎的な理論と実践方法を身に着けること。また，柔道精神，体力，歴史，礼法，基本動作，受身，立技，固技などの技能の習得を到達目標とする。

7. 成績評価の方法・基準

授業への取り組み姿勢（50％），および最終テストの結果（下記①②③）によって評価する。

- ① 身体の安全を，守れる体力・技術・知識を身につけているか（受身の試験 15％）
- ② 柔道の基礎的知識を理解して，その基本的技術を習得しているか（投技の試験 15％）
- ③ 講義内に行われる応用練習について理解しているか（20％）

8. テキスト・参考文献

講義内で参考資料を配布。

9. 受講上の留意事項

互いの負傷発生を防ぐため以下の項目を厳守すること。

- ・手足の爪は短く切っておくこと。
- ・ネイルは付けないこと。ネイルを付けていたら外すこと。
- ・装飾品（指輪，ネックレス，ピアス，ブレスレット，ミサンガなど）は授業前に必ず外しておくこと。
- ・髪の毛の長い学生は髪を結び襟につかないようにすること。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は講道館柔道二段有し，柔道指導歴などの実務経験を活かして実技指導を行う。て実技指導を行う。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

スポーツ実技（ソフトボール）		実習	教授 谷口 英規	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの専門選択科目，スポーツトレーナーコースの専門選択科目，教職科目，柔道整復師コースの教養選択科目，救急救命士コースの教養選択科目	ナンバリング		11322108
				11531104
				12220110
				12531104
				13220117
				13531104

1. 授業のねらい・概要

ソフトボールは、「投げる・打つ・走る」などの運動の基本動作から構成され、バランスのとれた運動能力を養うことができる。また、役割を区分しやすい競技であるため、自他の能力の活かし方を考え、チームスポーツで必要とされる協調性や責任感を養い、ソフトボールにおけるルールや安全面での配慮や留意事項等の知識を学習することにより、ソフトボールの指導方法や運営方法を身につけることを目的とする。

2. 授業の進め方

基本的な技術を習得するため、グラウンド・屋内練習場での実技が中心となる。また、天候によっては教室でルールや戦術といった講義形式で実施し、レポート提出を課す場合もある。

※授業の進行状況により内容等が変更になる場合もある。

3. 授業計画

1. ガイダンス	9. ゲーム①（短いイニングを役割決めて行う）
2. 投球の基礎技術（グラブの使い方、キャッチボール）	10. ゲーム②（短いイニングで基礎戦術を学ぶ）
3. 守備の基礎技術（グラブ操作、ゴロ捕球、フライ捕球）	11. 班別対抗戦①（ケースを決めて走・攻・守を行う）
4. 投手の基礎技術（ウィンドミル投法）	12. 班別対抗戦②（ケース毎に戦術を立てる）
5. ノックの基礎技術（内野手および外野手へのノック）	13. 班別対抗戦③（これまでの基礎技術を活かす）
6. チームでの守備連携（併殺プレー、シートノック）	14. 班別対抗戦④（スコアの書き方を学ぶ）
7. 打撃の基礎技術（トスバッティング、ティーバッティング）	15. 班別対抗戦⑤（まとめ）
8. 走塁の基礎技術（ベースランニング・打球判断）	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

ソフトボールのルールを事前に調べ、自分の言葉で説明できるようにする為の準備学修に1時間以上必要である。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポート提出の際、出題意図および回答を提出期限最終日に解説する。

6. 授業における学修の到達目標

ソフトボールの基礎技能を理解し、指導するうえで、必要な基本的な動作「投・捕・打・走」を身につけること。また、体育教員（中学校・高校）やスポーツ少年団などの各地域でのスポーツ指導者として、必要な知識（ルール・戦術）及び安全面の配慮などの留意事項等を学び、正しく安全に指導ができる力を身につけることを目標とする。

7. 成績評価の方法・基準

技術の習熟度及び授業への取り組み（70%）、期末試験としてのレポート課題（30%）によって評価する。

8. テキスト・参考文献

ソフトボール 最強の戦術 メイツ出版 安藤美佐子（¥1,404）

ソフトボール 監督・コーチ入門 池田書店 宗方貞徳（¥1,296）

9. 受講上の留意事項

実技が中心のため運動に適した服装で出席すること。また、実技を行うことを考慮し受講者数を調整する場合もある。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無
該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連
上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

スポーツマネジメント論		講義	講師 菅谷 美沙都	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの選択必修科目、スポーツトレーナーコースの専門選択科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの教養選択科目 教職科目	科目ナンバリング	11312202 12220203 13220204 11531201 12531201 13531201	

1. 授業のねらい・概要

我が国におけるスポーツは、学校体育にみられる教育的価値の実現を前提として発展してきたが、社会の変化とともにスポーツの楽しさや喜び、健康増進等多様な価値が見出され、人々の生活の中に取り込まれるようになった。スポーツマネジメントとは、文化としてのスポーツと人々との直接的な関わり合いを成立させ、スポーツの持つ文化的な価値がより多くの人々に享受されるように促す営みである。よって、スポーツマネジメントは経済的利潤のみを目的とするものではなく、人々の豊かなスポーツ生活の実現を目指してスポーツを創造し供給することを目的としていることを理解する必要がある。本講義は、スポーツマネジメントの基本概念を理解し、学校体育や地域スポーツ等様々なスポーツ実践領域におけるマネジメントの考え方を学ぶ。

2. 授業の進め方

授業ではレジュメ等を配布する。また、隔回授業中に課題等を提出し、授業内容の理解度を確認する。

3. 授業計画

1. オリエンテーション（授業の進め方、成績と評価について等）	9. 体育・スポーツ事業の運営：クラブサービス事業
2. スポーツマネジメントの概念と実践領域	10. スポーツマネジメントと学校体育
3. スポーツマネジメントの構造	11. 学校運動部活動のマネジメント
4. 運動者と運動者行動	12. スポーツ組織のマネジメント
5. 豊かな運動生活の捉え方	13. 地域スポーツのマネジメント
6. 体育・スポーツ事業と経営資源	14. スポーツ事業の評価、マネジメントサイクル
7. 体育・スポーツ事業の運営：エリアサービス事業	15. まとめ
8. 体育・スポーツ事業の運営：プログラムサービス事業	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

授業時に配布するレジュメや資料等を復習し、疑問点を明確にしておくこと。また、次回の講義内容に関する情報収集をしておくこと。これらの自主学修には2時間以上が必要である。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験実施の直後、解答のポイントや評価の基準に関する説明を行う。また、リアクションペーパーについては、記述内容のポイントや評価の基準に関する説明を次週の授業内で行う。

6. 授業における学修の到達目標

スポーツマネジメントの目的や基本概念を理解し、スポーツの現代的な課題に対してスポーツマネジメントの視点から考察できるようになることを目標とする。

7. 成績評価の方法・基準

期末試験（50%）、課題・ミニレポート（30%）、授業態度（20%）をみて総合的に評価する。

8. テキスト・参考文献

教科書は特に指定しない。適宜、資料・プリントを配布する。

参考文献：柳沢和雄・木村和彦・清水紀宏 編著「テキスト体育・スポーツ経営学」（大修館書店，2017）

柳沢和雄・清水紀宏・中西純司 編著「よくわかるスポーツマネジメント」（ミネルヴァ書房，2017）

畑攻・小野里真弓 編著「基本スポーツマネジメント」（大修館書店，2017）

9. 受講上の留意事項

特になし。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

スポーツ心理学		講義	教授 竹内 成生
科目カテゴリ	スポーツマネジメントコースの専門 選択科目、スポーツトレーナーコースの 選択必修科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの教養選択科目 教職科目	科目ナンバリング	11321205 11532202 12220205 12532202 13220205 13532202

1. 授業のねらい・概要

スポーツ心理学は主に運動の実践と指導について心理学的見地から研究する分野である。しかしながら、近年のスポーツ心理学は競技スポーツのみならず、生涯スポーツや観戦といった個人・社会とスポーツの関係までを研究対象としており、健康で充実した生涯を過ごすという視点も重要視している。本講義では動機付け、パーソナリティ、ストレス、コーチング、メンタルトレーニング、運動の制御と学習などをキーワードとしてスポーツ心理学を概観し、ピークパフォーマンスの発揮に重要な運動意欲、セルフコントロール等の心理スキルを自身のスポーツ活動に応用できる知識を身に付けることを目標とする。

2. 授業の進め方

パワーポイント、スライド、板書等による講義形式であるが体験を用いた授業を進める。また視聴覚教材を適宜使用する。

3. 授業計画

1. スポーツ心理学とは	9. スポーツとメンタルヘルス
2. 運動の制御	10. スポーツとメンタルトレーニング
3. 運動技能の学習 1 (学習機構)	11. スポーツへの参加・離脱
4. 運動技能の学習 2 (情報処理)	12. スポーツと指導者
5. 発達と運動	13. 運動技能の指導
6. スポーツと動機付け	14. スポーツとメンタルヘルス
7. パーソナリティとはなにか	15. まとめ
8. スポーツとストレス	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

講義はシラバスに則って進行するため、各テーマについて予め考察しておくこと。加えて、各講義で学んだ概念や各トピックについて、自らの経験と照らし合わせて理解を深めることが重要である。なお、各講義における準備学習時間は 2 時間以上を要する。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

小課題や小レポートに関する詳細解説は次の講義内にておこなう。また、最終課題のフィードバックは出題意図・解答ならびに理解すべき点等について課題終了後に実施する。

6. 授業における学修の到達目標

スポーツ心理学の概略を理解し、スポーツ場面における心理とその機能に関する知見の重要性を理解すること。また、心理的スキルを自身のスポーツ活動にも応用できる知識を身に付けること、ならびにスポーツを行う状況（健康の維持・増進活動としてのスポーツ、競技としてのスポーツ）や、スポーツに関与する立場（実践者、指導者、応援・観覧）による心理的差異についての理解を深めることを目標とする。

7. 成績評価の方法・基準

各回の課題実施状況（25%）、課題/小レポート評価（45%）、最終課題（30%）を基準として総合的に評価する。

8. テキスト・参考文献

テキストは特に指定しないが、参考図書を初回授業内に紹介する。各講義でプリントを配布することがある。

9. 受講上の留意事項

スポーツ心理学はスポーツをする人にとって身近な分野であり、その心理作用を具体的にイメージし易いことから、自身の経験に当てはめて考え、理解を深めるようにすること。また、講義内で各テーマに関係した簡単な実験デモンストレーションや心理検査などを進んで体験すること。これら体験をもとに理解を深めることを重要な評価のひとつとするので、積極的に学習を進めてほしい。履修希望者が定員を超えた場合には抽選となることがあるため、希望者は初回講義に必ず参加すること。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。障害を対象とした研究機関での実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

スポーツ産業論		講義	講師 菅谷 美沙都	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの選択必修科目 スポーツトレーナーコースの専門選択科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの教養選択科目 教職科目	科目ナンバリング	11312206 12220213 13220206 11532203 12532203 13532203	

1. 授業のねらい・概要

私たちにとってスポーツは非常に身近なものとなり、スポーツを楽しむ場所や機会は飛躍的に増大した。スポーツ参加の機会は増えるとともに、私たちはスポーツにおいても消費行動を展開するようになった。この授業では、スポーツ観戦やスポーツ関連商品の消費行動から、プロスポーツのクラブビジネス、プロリーグの構造などスポーツ産業全般を理解するとともに、スポーツ産業の諸領域の今日的な課題を議論する。将来、スポーツ関連の仕事に携わりたいと考えている学生にとって、スポーツの価値を活かし、スポーツ産業界で仕事を創り出すとはどういうことなのか、具体的なイメージを抱けるようになることを目指す。

2. 授業の進め方

授業ではレジュメを配布する。また、隔回授業最後に課題を提出し、授業内容の理解度を確認する。

3. 授業計画

1. オリエンテーション（授業の進め方、成績と評価について等） 2. スポーツ産業とは（スポーツ産業の領域、スポーツ市場の現状） 3. スポーツ用品産業 4. スポーツ施設産業 5. スポーツサービス情報産業（スポーツとメディア） 6. フィットネスクラブのマネジメント（フィットネス産業の現状、サービス特性） 7. クラブ事業のマネジメント（チーム、クラブ、球団、ステークホルダー） 8. オリンピックとスポーツ産業界（オリンピック開催を巡る諸問題）	9. 日本のプロスポーツ①（リーグの構造） 10. 日本のプロスポーツ②（プロ野球のマネジメント） 11. スポーツスポンサーシップ 12. 権利ビジネスとしてのスポーツ（スポーツ選手の契約、企業との権利関係） 13. スポーツファンを知る（みるスポーツとしてのビジネス展開） 14. 海外のプロスポーツ（欧州の事例） 15. 大学スポーツの産業化を考える／まとめ
---	--

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

授業時に配布するレジュメや資料等を復習し、疑問点を明確にしておくこと。また、今回の講義内容に関する時事問題（新聞記事などを事前に配布することもある）を自ら調べること。これらの自主学修には2時間以上が必要である。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業の課題については、次の授業冒頭で解答のポイントに関する説明を行うとともに、優秀な回答例を紹介し評価の基準等の解説を行う。中間レポートについては、採点后に返却を行う。

6. 授業における学修の到達目標

スポーツ産業の成り立ちや全体像を理解し、個別具体的なスポーツ産業領域の現状を理解する。

また、スポーツ産業の諸領域における今日的課題について理解を深め、論理的に自分の意見を記述できるようにする。

7. 成績評価の方法・基準

期末試験（50％）、中間レポート及授業での課題（30％）、授業態度（20％）をみて総合的に評価する。

8. テキスト・参考文献

教科書は特に指定しない。適宜、資料・プリントを配布する。

参考文献：原田宗彦 編著「スポーツ産業論第7版」（杏林書院，2021）

9. 受講上の留意事項

特になし。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

スポーツ施設管理論		講義	講師 菅谷 美沙都
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの選択必修科目 救急救命士コースの教養選択科目	科目ナンバリング	11310202 13220207

1. 授業のねらい・概要

スポーツ施設の管理運営における基本と実践について理解する。

人々のスポーツ実践の主たる場は、運動・スポーツ施設であり、様々なスポーツ施設は人々のスポーツ活動の質と量を規定する性質を有する。本講義では、運動・スポーツ施設の基本的機能を理解し、スポーツ施設の効率的な管理運営、すなわちスポーツファシリティマネジメントの基礎理論を学ぶ。さらに、我が国におけるスポーツ施設の管理運営事例を取り上げ、スポーツ施設整備の在り方や管理運営の手法について理解を深める。

なお、「スポーツ産業論」を受講していることが望ましい。

2. 授業の進め方

隔回授業最後に課題を提出し、授業内容の理解度を確認する。適宜、スポーツ施設関連の新聞記事や資料を配布する。

3. 授業計画

1. オリエンテーション（授業の進め方、成績と評価について等）	9. クラブライセンス制度とスポーツ施設の問題
2. 我が国のファシリティマネジメントの現状	10. スポーツ施設管理運営における人的資源と危機管理
3. スポーツ施設の基本的な分類と体系	11. スタジアム・アリーナビジネスの手法
4. エリアサービス事業とは（ファシリティマネジメントの基礎知識）	12. スポーツ施設における指定管理者制度
5. スポーツ施設産業とスポーツ施設の運営	13. スポーツ施設におけるネーミングライツ
6. スポーツファシリティとサービス	14. スポーツ施設のバリアフリー化
7. 日本のスタジアム分析	15. まとめ
8. 生活圏のスポーツ施設	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

講義内容を確認し、疑問点を明確にしておくこと。また、今回の講義内容に関する時事問題（新聞記事などを事前に配布することもある）を自ら調べること。これらの自主学修には2時間以上が必要である。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポート提出の直後、記述内容のポイントや評価の基準に関する説明を行う。授業の課題については、記述内容のポイントや評価の基準に関する説明を次週の授業内で行う。

6. 授業における学修の到達目標

- ・スポーツ施設運営の基本を理解し、各施設の特徴や経営手法の違いを理解できる。
- ・我が国のスポーツ施設の現状や課題を検討し、より良いスポーツ施設のあり方についてファシリティマネジメントの視点から考究することができる。
- ・自分が普段利用（観戦含む）しているスポーツ施設の管理や運営について、授業で学んだ知識をもって分析できる態度を養う。

7. 成績評価の方法・基準

授業時における課題（50%）、最終レポート（40%）及び授業への取り組み方（10%）から総合的に評価する。

8. テキスト・参考文献

教科書は特に指定しない。適宜、資料・プリントを配布する。

参考文献：原田宗彦・間野義之 編著「スポーツファシリティマネジメント」（大修館書店，2011）
原田宗彦 編著「スポーツ産業論第7版」（杏林書院，2021）

9. 受講上の留意事項

特になし。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は、スポーツ施設管理運営組織における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

スポーツ行政論		講義	講師 菅谷 美沙都	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの選択必修科目 救急救命士コースの教養選択科目		科目ナンバリング	11310201 13220208

1. 授業のねらい・概要

我が国のスポーツ行政について、国・都道府県・市町村別のスポーツ政策や行政組織を理解すると共に、スポーツ基本法が示す要点を確認し、地域スポーツ振興やオリンピック選手育成にかかる競技力向上、スポーツ施設の整備等について政策的な観点から学ぶ。我が国のスポーツ政策を体系的に理解し、国や地方自治体によるスポーツ政策について具体的な事例を取り上げながら理解を深める。

2. 授業の進め方

スポーツ基本法やスポーツ基本計画、地方自治体のスポーツ推進計画等、実際のスポーツ政策の資料を用いて、条文を解釈する読解力と思考力を高める。

3. 授業計画

1. オリエンテーション（授業の進め方、成績と評価について等）	9. 運動部活動の歴史と政策的展開
2. スポーツ政策とは何か（スポーツの公共性と政策）	10. 地域スポーツの振興：総合型地域スポーツクラブとは何か
3. スポーツ基本法の成立とその特徴	11. 我が国のスポーツ施設と政策
4. スポーツ振興法とスポーツ基本法（比較分析）	12. 地域スポーツ政策の立案①：地域の課題分析
5. スポーツ基本計画の概要と目的	13. 地域スポーツ政策の立案②：具体的な事業の企画
6. 我が国の競技スポーツ振興政策	14. 地域スポーツ政策の立案③：実行のための資源調達
7. 地方自治体のスポーツ振興政策	15. まとめ
8. 国と地方自治体のスポーツ行政組織・スポーツ財政	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

事前に配布する「スポーツ基本法」や資料を項目別に要点をまとめて授業に臨むと共に、授業時に配布するレジュメや授業ノートを復習しておくこと。これらの自主学修には2時間以上が必要である。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験実施の直後、解答のポイントや評価の基準に関する説明を行う。レポート提出の際、採点のポイント等を説明する。

6. 授業における学修の到達目標

スポーツ基本法及びスポーツ基本計画が示す要点を理解し、行政が進める「総合型地域スポーツクラブ」や「運動部活動改革」の意義及び内容を理解した上で、自らスポーツに関する課題解決に向けた政策を立案できる論理的思考力・創造力を身につける。

7. 成績評価の方法・基準

リアクションペーパー及び中間テスト（50%）、期末レポート（30%）、授業態度（20%）をみて総合的に評価する。

8. テキスト・参考文献

教科書は特に指定しない。適宜、資料・プリントを配布する。

9. 受講上の留意事項

特になし。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は、スポーツ行政組織における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

スポーツ社会学(1)(2)		講義	講師 菅谷 美沙都	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの選択必修科目 スポーツトレーナーコースの専門選択科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの教養選択科目 教職科目	科目ナンバリング	11312101 12220117 13220118 11532104 12532104 13532104	

1. 授業のねらい・概要

オリンピックやワールドカップなど、世界的なスポーツイベントに対する国民の関心の高まりに象徴されるように、現代においてスポーツは強大な社会現象あるいは文化現象となりつつある。現代社会における生活や健康、さらには生きがいや福祉というキーワードはますます重要になっており、スポーツは私たちにとって必須の生活文化となりつつある。

人々はなぜスポーツを実施したり観戦したりするのだろうか。現代社会におけるスポーツの意味や価値をどのように理解するかは、種々のスポーツ指導者やスポーツ関連の職を目指すものにとって、専門性を問う基礎的な教養として非常に重要なことである。スポーツの起源や発展過程を歴史的な文脈で理解し、スポーツが人間や社会にとってどのような文化的な価値を有しているのか、社会学的な視点からの理解を深める。

2. 授業の進め方

授業ではレジュメを配布する。また、隔回授業最後に課題を提出し、授業内容の理解度を確認する。適宜、社会におけるスポーツの課題に関する新聞記事や資料を配布する。

3. 授業計画

1. オリエンテーション（授業の進め方、成績と評価について等） 2. スポーツの概念と歴史①（スポーツとは何か、スポーツの歴史的発展） 3. スポーツの概念と歴史②（スポーツの社会的システム） 4. 文化としてのスポーツ①（日本人のスポーツ観） 5. 文化としてのスポーツ②（スポーツマンシップとフェアプレイ） 6. 社会の中のスポーツ①（スポーツの多様化） 7. 社会の中のスポーツ②（スポーツマンガの社会学） 8. 社会の中のスポーツ③（スポーツの産業化、スポーツと経済）	9. 学校の運動部活動をめぐる問題①（教員の過重負担） 10. 学校の運動部活動をめぐる問題②（部活動の地域展開） 11. みるスポーツとは何か（スペクテイタースポーツの理解） 12. 障がい者とスポーツ 13. こどものスポーツ環境を考える 14. スポーツと暴力の社会学 15. 現代社会におけるスポーツの課題（新しいスポーツのかたち）
---	--

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

授業時に配布するレジュメや資料等を復習し、疑問点を明確にしておくこと。また、今回の講義内容に関する情報収集をしておくこと（新聞記事などを事前に配布することもある）。これらの自主学修には2時間以上が必要である。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験実施の直後、解答のポイントや評価の基準に関する説明を行う。また、授業時の課題については、今回の授業内で優秀な回答例を紹介し評価の基準等の解説を行う。

6. 授業における学修の到達目標

スポーツの文化的な価値や意義を理解し、社会学の視点から現代社会におけるスポーツの在り方を思考する力を身につける。

7. 成績評価の方法・基準

期末レポート（50%）、授業時における課題（30%）、授業態度（20%）をみて総合的に評価する。

8. テキスト・参考文献

教科書は特に指定しない。適宜、資料・プリントを配布する。

参考文献：森川貞夫・佐伯年詩雄 編著「スポーツ社会学講義」（大修館書店，2009）

山田明編 「未来を拓くスポーツ社会学」（みらい，2020）

9. 受講上の留意事項

特になし。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

地域スポーツ論		講義	教授 小笠原 正志	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの選択必修科目、スポーツトレーナーコースの専門選択科目 教職科目 柔道整復師コースの教養選択科目 教職科目	科目ナンバリング	11312203 11532205 12220204 12532205	

1. 授業のねらい・概要

人生 100 年時代の到来が予測されている。人生が長くなればなるほど、健康体をより長く維持していくことのできる持続可能な社会を構築していくことが求められている。とりわけスポーツは、心身の健康を維持する上で重要な役割を果たすことは明らかである。国民ひとりひとりが、生涯にわたって身近な地域でスポーツに親しむことを可能とする環境づくりは、人生 100 年時代における必須の社会課題といえる。

近年では、プロスポーツチームのホームタウン性による地域活性化や、総合型地域スポーツクラブによる地域住民のスポーツ活動の促進など、スポーツを通じた地域づくりが注目されている。また、認知症予防や介護予防のために、高齢者向けの筋力トレーニングを地域で実践するなど、地域に根差したスポーツの普及の仕組みづくりが模索されている。

そこで、本講義では、地域スポーツの意義やその機能を理解するとともに、具体的な実践例を通して、生涯にわたるスポーツの実践と地域づくりについて学習する。

2. 授業の進め方

地域スポーツ論の基本概念を理解するとともに、様々な実践例を用いて具体的なプログラムなどの提案を検討する。地域スポーツの具体的な内容について調査し、レポートにまとめる。

3. 授業計画

1. ガイダンス	9. 健康運動の地域への普及（持続可能な普及方法）
2. スポーツ少年団からスポーツと地域を考える	10. スポーツツーリズムとまちづくり
3. 地域におけるスポーツ振興方策と行政の関わり	11. 総合型地域スポーツクラブの実例
4. スポーツ基本法とスポーツ基本計画	12. プロスポーツと地域貢献
5. 総合型スポーツクラブの必要性と社会的意義	13. プロスポーツと地域貢献（農業振興）
6. 総合型スポーツクラブのマネジメント（育成・運営）	14. Jリーグと地域貢献 川崎フロンターレの実例
7. 地域スポーツクラブの活動拠点の確保	15. 日本ハムファイターズの球場再生事業
8. 健康運動の地域への普及（人件費・事業費）	講義のまとめ

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の授業を受講するまでにテキストや資料を活用して予習し、講義内容を復習しておくこと。これらの準備学修には、1 時間程度が必要である。新聞やインターネット等を通して、地域における様々なスポーツ活動に関する情報を得ること。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題に関しては次回の講義で数人に発表してもらい講評する。最終課題についてのそれぞれの発表時に講評する。

6. 授業における学修の到達目標

地域における様々なスポーツについて学習し、関心を高めるとともに理解を深めていく。

自分の住む町の地域スポーツクラブ、スポーツイベントに参画、協力することができる。

7. 成績評価の方法・基準

講義への参加意欲ならびに各回の課題への取り組み状況 (50%)、および期末レポート (50%) により総合的に評価する。ただし、講義回数の 3 分の 1 以上欠席した者は評価の対象としない。

8. テキスト・参考文献

小笠原正志, 「健康生活とスポーツ」, SIS, 2024。その他講義資料は必要に応じて配布する。

参考図書: 山口泰雄「地域を変えた総合型スポーツクラブ」 大修館書店 (2006)

二杉茂ら「地域スポーツクラブ指導者ハンドブック」 晃洋書房 (2009)

木田悟ら「スポーツで地域を拓く」東京大学出版会 (2013)

9. 受講上の留意事項

私語および携帯電話の使用, 飲食, 帽子の着用は禁止とする。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は, 企業における運動指導に関する実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

健康とスポーツA		講義	准教授 諏訪 利成
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの専門選択科目、 スポーツトレーナーコースの専門選択科目 教職科目 柔道整復師コースの教養選択科目 教職科目 救急救命士コースの教養選択科目 教職科目	科目ナンバリング	11220130 11510102 12220146 12510102 13220125 13510102

1. 授業のねらい・概要

自由時間の増大にともない、スポーツを通じてどのように豊かな生活を過ごしたらよいかを考えることをねらいとする。スポーツという言葉は日常おおく使われるが、これから定義したり内容を限定しようとする問題が多い言葉である。

そこで、スポーツ生活について言語学的な理解とスポーツについての理解を深め、スポーツ生活について考え、学生たちが屋外で行う健康的なスポーツとして幅広い教養とスポーツを享受する能力を高め、ゆとりある社会生活を営むことを考えていく講義にする。

2. 授業の進め方

理論と実技を交えながら講義を行う。低下しつつある体力の回復を計ることを狙いとするとともにスポーツを通じて仲間づくりと、運動の量を確保しながら講義を進めて行きたい。

3. 授業計画

1. ガイダンス（教室にて） 2. 健康の考え方 3. スポーツ活動 4. 実技種目の説明 5. サッカー（ルールの理解） 6. サッカー（パスの練習） 7. サッカー（パスの練習・練習ゲーム） 8. サッカー（①班別による練習ゲーム）	9. サッカー（②班別による練習ゲーム） 10. ソフトボール（ルールの理解） 11. ソフトボール（簡単スコアの書き方） 12. ソフトボール（簡単スコアの書き方・練習ゲーム） 13. ソフトボール（①班別による練習ゲーム） 14. ソフトボール（②班別による練習ゲーム） 15. まとめ（歴史についての理解）
---	--

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

事前に 60 分ほどかけて、書籍などにより各種目のルールを理解しておくこと。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業最終日、各自に対応する。

6. 授業における学修の到達目標

スポーツを通じてどのように豊かな生活を過ごしたらよいかを理解し、実践できることを目標とする。

7. 成績評価の方法・基準

求められる実技がしっかり行えているか（50%）、また積極的に参加できているか（50%）を見て評価する。

8. テキスト・参考文献

随時指示する。

9. 受講上の留意事項

実技を行う際には運動に適した服装で出席すること。受講人数が多い場合は調整することもある。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無
該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連
上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

運動トレーニング論B		講義	准教授 諏 利成
科目カテゴリ	スポーツマネジメントコースの専門選択科目、スポーツトレーナーコースの専門選択科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの教養選択科目	科目ナンバリング	11322115 12220115 13220120

1. 授業のねらい・概要

現代は機械化にともない以前は歩かなければならなかった場所に車や電車で到着することができる。最低限の体力さえあれば生きていくことができる。

日本人の平均寿命は世界でも有数であるが、長命と長寿は異なるのだと思う。

長命とは単に長生きすることで、長寿とは生きがい持ちつつ健康で長生きすることである。そのために体力がいかに大切であるかを考えてもらうことを狙いとする。

トレーニングを効果的に行うには体力を高めるだけでなく、技術を習得することも必要である。

この講義では、各個人に合わせた練習手段、回数、セット間の休憩などの観点から事例をあげ体力づくりの態度を養うことと、技術習得もあわせて行いたい。

2. 授業の進め方

体力測定を実施し各自の体力の評価を行い、体力づくりのためのトレーニングの技術習得方法等を実践を交えながら行う。

3. 授業計画

1. ガイダンス（教室にて）	9. 体力テストとその活用（2）各自の評価
2. 体力テストのねらい	10. 集中力トレーニング（1）集中力とは
3. 体力テスト方法とテスト項目	11. 集中力トレーニング（2）注意集中タイプ
4. 体力テスト（1）握力・上体起し・長座体前屈	12. 集中力を高めるトレーニングの実際
5. 体力テスト（2）反復横跳び・立ち幅とび	13. 筋の収縮様式・静的収縮・動的収縮
6. 体力テスト（3）持久走・50m走	14. プレッシャー、あがり、スランプの克服
7. 体力テスト（4）ハンドボール投げ	15. まとめ
8. 体力テストとその活用（1）項目別得点	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

事前に 60 分間ほどかけて、トレーニングに関する参考文献を読んでおくこと。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験実施後、各自に対応する。

6. 授業における学修の到達目標

体力向上と共にトレーニング内容について理解することと、説明できるようになることを目的とする。

7. 成績評価の方法・基準

授業への取り組み姿勢（50%）および定期試験の結果（50%）で評価する。

8. テキスト・参考文献

別途指示する。

9. 受講上の留意事項

実技を行う際には運動に適した服装で出席すること。慢性的な疾病もしくは障害によって実技部分の受講に不安のある

学生は、事前に申し出ること。受講希望者が多い場合、人数制限を行う場合がある。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

コーチング論		講義	准教授 山口 重信	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの専門選択科目, スポーツトレーナーコースの選択必修科目 教職科目 柔道整復師コースの教養選択科目 教職科目 救急救命士コースの教養選択科目 教職科目		科目ナンバリング	11321102 11532107 12220118 12532107 13220121 13532107

1. 授業のねらい・概要

近年のライフスタイル変化にともない、スポーツは人々の生活を豊かにするために欠かせない要素の一つとなってきた。スポーツジムやフィットネスクラブなど施設を利用したものに限らず、スポーツ教室のように地域の人々が集まって取り組むケースも多く見られ、スポーツ指導者を求める声も高まってきている。

本講義は、公益財団法人日本スポーツ協会の「公認スポーツ指導者制度」で定めるカリキュラムに基づいて行う。スポーツのコーチングに関するさまざまな知識を身につけ、「スポーツを安全に、正しく、楽しく」指導し、「スポーツの本質的な楽しさ、素晴らしさ」を伝えることができる人材に育ってほしいと考えている。

2. 授業の進め方

公認スポーツ指導者養成テキストを参考に進めていく。講義内容に関連したビデオの鑑賞なども行う。

また、与えた課題についてのレポートを提出してもらい授業内容の理解度を確認しながら展開していく。

3. 授業計画

1. ガイダンス～本講義の概要説明	9. 指導計画の立て方
2. スポーツ指導者とは	10. スポーツ指導計画の重要性
3. スポーツ環境からみた指導者の役割	11. 指導計画の検証
4. 指導者の心構え・視点	12. ドーピング防止に必要な知識
5. スポーツ指導者のコミュニケーションスキル	13. スポーツ活動と安全管理
6. 一貫指導とそのシステム化の重要性	14. 安全確保のための具体的行動
7. 発達発育とスポーツ	15. まとめ
8. 時代をリードするコーチング（女性コーチの活躍）	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

前回の講義内容を復習し、理解して自分の言葉で表現できるようにしておく。なお事前課題があれば予習をしておくこと。これらの学修には、2時間程度が必要である。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポート提出の際、解答などを説明する。

6. 授業における学修の到達目標

スポーツにおけるコーチングの知識を身につけて、指導現場で活かせるようになる。

7. 成績評価の方法・基準

授業への取り組み姿勢（50%）およびレポートの結果（50%）を総合的に評価する。

8. テキスト・参考文献

参考図書：「リファレンスブック」（公益財団法人 日本スポーツ協会）

「公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ・Ⅲ」（公益財団法人 日本体育協会）

9. 受講上の留意事項

受講時間数も単位修得に必要とされる科目のため、講義回数の3分の1以上欠席した場合は単位を与えない。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

スポーツ指導論		講義	准教授 山口 重信	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの専門選択科目、スポーツトレーナーコースの選択必修科目 教職科目 柔道整復師コースの教養選択科目 教職科目 救急救命士コースの教養選択科目 教職科目	科目ナンバリング	11321101 11532108 12220116 12532108 13220122 13532108	

1. 授業のねらい・概要

スポーツには事故はつきものであり、指導者が法律上の責任を問われる場合がある。そうした事態を未然に防ぐためには、スポーツ指導者はさまざまな知識を身につけて、安全かつ楽しくスポーツに取り組める環境を作ることが大切である。

本講義は、財団法人日本スポーツ協会の「公認スポーツ指導者制度」で定めるカリキュラムに基づいて行う。スポーツ指導者に必要な知識を身につけ、「スポーツを安全に、正しく、楽しく」指導し、「スポーツの本質的な楽しさ、素晴らしさ」を伝えることができる人材に育ってほしいと考えている。

2. 授業の進め方

公認スポーツ指導者養成テキストを参考に進めていく。講義内容に関連したビデオの鑑賞なども行う。

また、与えた課題についてのレポートを提出してもらい授業内容の理解度を確認しながら展開していく。

3. 授業計画

1. ガイダンス～本講義の概要説明	9. 長期的な視野に立った競技者育成
2. 指導者の役割とは	10. 世界の頂点をめざすアスリートの育成・強化の在り方
3. 安全管理システムの構築	11. スポーツ事故のリスクマネジメント
4. プレイヤーと指導者の望ましい関係	12. スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任
5. コーチングスキル	13. スポーツと人権
6. コーチングとティーチング	14. スポーツ仲裁
7. ミーティングの方法	15. まとめ
8. ミーティング実施のポイント	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

前回の講義内容を復習し、理解して自分の言葉で表現できるようにしておく。なお事前課題があれば予習をしておくこと。これらの学修には、2時間程度が必要である。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポート提出の際、解答などを説明する。

6. 授業における学修の到達目標

スポーツ指導者としての正しい知識を身につけて、指導現場で活かせるようになる。

7. 成績評価の方法・基準

授業への取り組み姿勢（50％）およびレポートの結果（50％）を総合的に評価する。

8. テキスト・参考文献

参考図書：「リファレンスブック」（公益財団法人 日本スポーツ協会）

「公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ・Ⅲ」（公益財団法人 日本体育協会）

9. 受講上の留意事項

前期に行われる「コーチング論」の単位取得後の受講が望ましい。

受講時間数も単位修得に必要とされる科目のため、講義回数の3分の1以上欠席した場合は単位を与えない。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

ストレングス・コンディショニング 特講		講義	教授 柳澤 修	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの専門選択科目, スポーツトレーナーコースの専門選択科目, 柔道整復師コースの教養選択科目, 救急救命士コースの教養選択科目	科目ナンバリング	11322401 12220401 13220401	

1. 授業のねらい・概要

NSCA(National Strength and Conditioning Association)の認定資格である CSCS(Certified Strength & Conditioning Specialist：認定ストレングス&コンディショニングスペシャリスト) の受験対策講義である。本授業のねらいは、CSCS 資格認定試験の受験に必要な基本的な知識の獲得である。本講義を通じて、「運動科学の概念と適用」「測定と評価」「エクササイズテクニック」「プログラムデザイン」、そして「構成と運営」に関する基本的な事項を学ぶ。

2. 授業の進め方

講義と問題演習を組み合わせる授業を進めていく。

3. 授業計画

1. 筋系, 神経系, 呼吸循環系の構造と機能	9. ウォームアップとストレッチング
2. 運動とエネルギー供給系	10. レジスタンスエクササイズのテクニック
3. トレーニングと内分泌系	11. 無酸素性運動の処方
4. レジスタンスエクササイズのバイオメカニクス	12. 有酸素性運動の処方
5. トレーニングに対する適応	13. ピリオダイゼーション
6. 競技と心理学	14. リハビリテーションとリコンディショニング
7. トレーニングと栄養	15. 組織と運営
8. テストと評価	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

次回のテーマに該当する章（NSCA 決定版 ストレングストレーニング&コンディショニング）を熟読しておくこと。なお、この準備学修には2時間以上が必要である。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

問題演習の解説を通じて、トレーニング科学に関する知識をフィードバックする。

6. 授業における学修の到達目標

CSCS 資格認定試験の受験に必要な基本的な知識を獲得する。

7. 成績評価の方法・基準

授業内の問題演習で評価する（100%）。成績評価にあたっては、授業回数の2/3以上の出席を前提とする。

8. テキスト・参考文献

NSCA 決定版 ストレングストレーニング&コンディショニング

9. 受講上の留意事項

CSCS を受験する学生が履修の対象となる。受講までに「NSCA 決定版 ストレングストレーニング&コンディショニング」を熟読しておくこと。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は、国内トップアスリートを対象とした研究機関における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

環境問題の科学 A

2 0 2 6 年度

休講

環境問題の科学 B

2 0 2 6 年度

休講

健康とスポーツA		講義	准教授 諏訪 利成
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの専門選択科目、 スポーツトレーナーコースの専門選択科目 教職科目 柔道整復師コースの教養選択科目 教職科目 救急救命士コースの教養選択科目 教職科目	科目ナンバリング	11220130 11510102 12220146 12510102 13220125 13510102

1. 授業のねらい・概要

自由時間の増大にともない、スポーツを通じてどのように豊かな生活を過ごしたらよいかを考えることをねらいとする。スポーツという言葉は日常おおく使われるが、これから定義したり内容を限定しようとする問題が多い言葉である。

そこで、スポーツ生活について言語学的な理解とスポーツについての理解を深め、スポーツ生活について考え、学生たちが屋外で行う健康的なスポーツとして幅広い教養とスポーツを享受する能力を高め、ゆとりある社会生活を営むことを考えていく講義にする。

2. 授業の進め方

理論と実技を交えながら講義を行う。低下しつつある体力の回復を計ることを狙いとするとともにスポーツを通じて仲間づくりと、運動の量を確保しながら講義を進めて行きたい。

3. 授業計画

1. ガイダンス（教室にて） 2. 健康の考え方 3. スポーツ活動 4. 実技種目の説明 5. サッカー（ルールの理解） 6. サッカー（パスの練習） 7. サッカー（パスの練習・練習ゲーム） 8. サッカー（①班別による練習ゲーム）	9. サッカー（②班別による練習ゲーム） 10. ソフトボール（ルールの理解） 11. ソフトボール（簡単スコアの書き方） 12. ソフトボール（簡単スコアの書き方・練習ゲーム） 13. ソフトボール（①班別による練習ゲーム） 14. ソフトボール（②班別による練習ゲーム） 15. まとめ（歴史についての理解）
---	--

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

事前に 60 分ほどかけて、書籍などにより各種目のルールを理解しておくこと。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業最終日、各自に対応する。

6. 授業における学修の到達目標

スポーツを通じてどのように豊かな生活を過ごしたらよいかを理解し、実践できることを目標とする。

7. 成績評価の方法・基準

求められる実技がしっかり行えているか（50%）、また積極的に参加できているか（50%）を見て評価する。

8. テキスト・参考文献

随時指示する。

9. 受講上の留意事項

実技を行う際には運動に適した服装で出席すること。受講人数が多い場合は調整することもある。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無
該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連
上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

健康とスポーツB		講義	准教授 諏訪 利成
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの専門選択科目、 スポーツトレーナーコースの専門選択科目 教職科目 柔道整復師コースの教養選択科目 教職科目 救急救命士コースの教養選択科目 教職科目	科目ナンバリング	11220131 11510103 12220147 12510103 13220126 13510103

1. 授業のねらい・概要

自由時間の増大にともない、スポーツを通してどのように豊かな生活を過ごしたらよいかを考えることをねらいとする。スポーツという言葉は日常多く使われるが、これから定義したり内容を限定しようとする問題が多い言葉である。

そこで、スポーツについて言語学的な理解とスポーツについての理解を深め、スポーツと生活について考え、学生たちが屋内で行える健康的なスポーツとして幅広い教養とスポーツを享受する能力を高め、ゆとりある社会生活を営むことを考えていく講義にする。

2. 授業の進め方

理論と実技を交えながら講義を行う。低下しつつある体力の回復を計ることを狙いとするとともにスポーツを通して仲間づくりと、運動の量を確保しながら講義を進めて行きたい。

3. 授業計画

1. ガイダンス（教室にて） 2. 健康阻害要因 3. スポーツと現代社会 4. 実技種目と歴史 5. バスケットボール（ルールの理解） 6. バスケットボール（パス・ドリブル・シュート・練習ゲーム） 7. バスケットボール（ランニングパス・ランニングシュート・練習ゲーム） 8. バスケットボール（守備を中心とした班別によるゲーム）	9. バスケットボール（攻撃を中心とした班別によるゲーム） 10. バレーボール（ルールの理解） 11. バレーボール（パス・練習ゲーム） 12. バレーボール（トス・アタック、練習ゲーム） 13. バレーボール（守備を中心とした班別によるゲーム） 14. バレーボール（攻撃を中心とした班別によるゲーム） 15. まとめ（歴史についての理解）
--	--

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

事前に 60 分ほどかけて、書籍などにより各種目のルールを理解しておくこと。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業最終日、各自に対応する。

6. 授業における学修の到達目標

スポーツを通じてどのように豊かな生活を過ごしたらよいかを理解し、実践できることを目標とする。

7. 成績評価の方法・基準

求められる実技がしっかり行えているか（50%）、また積極的に参加できているか（50%）を見て評価する。

8. テキスト・参考文献

随時指示する。

9. 受講上の留意事項

実技を行う際には運動に適した服装で出席すること。受講人数が多い場合は調整することもある。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

美 術		実技	非常勤講師 澁谷 朋子	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの教養選択科目、スポーツトレーナーコースの教養選択科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの教養選択科目		科目ナンバリング	11220128 12220145 13220127

1. 授業のねらい・概要

優れた絵画、美術作品を鑑賞することにより、芸術的感性のみならず人間性をも豊かにする。

また、絵、文字、文章を実際にかくことにより、表現することの喜び、かいたものを手紙として知人などに送る喜びを体験する。

2. 授業の進め方

講義と実習の二本立てで行う。特に実際に画材（例 花、果物など）を見ながら絵を描き文章を書き添える。1回の授業でハガキ大のサイズの場合1～2枚程度を仕上げる。

なお実習に使う道具としては、青墨、筆（墨用、顔彩用各1本ずつ）、顔彩18色、画仙紙はがき、すずり、筆洗い、梅皿など。

3. 授業計画

1. 私の絵手紙記念日。絵手紙の話と線の練習 （自分の名の一字を書く。） 2. いつも食べている果物、バナナなどを描いてみる。 （家族の名の一字を書く。） 3. 野菜（例 ピーマン）をハガキいっぱい描いてみる。 （瓦当の“楽”の字を書く。） 4. 春の花（例 ハナミズキなど）を描いてみる。 （多胡碑の一字を書く。） 5. 魚（例 メザシ）を描いてみる。 （いろはにほへの模写） 6. 民芸品、お土産品（例 こけしなど）を描いてみる。 （あいだみつをの文） 7. 巻紙大の紙に手紙を描いてみる。（画材は自由）	8. エンピツ、ドローイングペンを使って絵を描く。 9. 花をハガキ2枚、ワイドハガキまたは少し大きめの紙に描いてみる。 10. 有名な画家の絵（棟方志功、ピカソなど）を模写してみる。 11. ドクダミの花を描いてみる。 12. アジサイの花を描いてみる。 13. 印を作り、暑中見舞いを描いてみる。 14. SDGsを意識した絵手紙を描いてみる。（例 ダンボール、かまぼこの板、空箱） 15. ハガキ以外のもの、石などに絵を描きペーパーウェイトなどとして使用する。
--	--

授業計画はあくまで予定で、その時その時での変更がありますのでご承知下さい。

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習・復習は特にないが、授業で使用する画材などは持参することがある。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験やレポートは特にないが、製作した絵手紙は手紙としてポストに投函するか提出をする。

6. 授業における学修の到達目標

絵と文字と文章から成り立つ絵手紙をかき、実際にポストに投函、または提出することにより心と心の交流を図る他、文章力の向上も目指し、かく力を育む。（書育）

7. 成績評価の方法・基準

毎回の授業ごとに絵手紙を最低1枚以上仕上げる。（うまいへたは問いません）

1枚以上仕上げると満点とする。（ただし仕上げた絵手紙の講評は毎回必ず受け、ポストに投函する。）

8. テキスト・参考文献

小池邦夫 絵手紙の極意 日本放送出版協会 1999

その他の参考文献は授業時に随時紹介する。

9. 受講上の留意事項

条件は特にありません。「絵手紙をかいてみたい。」というその気持ちだけです。

絵手紙は「ヘタでいい ヘタがいい」です。一緒に絵手紙をかいてみませんか。

新しい世界が広がります。

※ 授業内容は、諸事情により変更することがあります。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

上武大学手がき文化研究所所長，上武大学絵手紙ギャラリー&ミュージアム館長，日本絵手紙協会公認講師，及び各種絵手紙講座講師としての経験を活かし講義・演習を行う。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

統計学の基礎 -データ処理入門-		講義	教授 竹内 成生	
科目カテゴリ	スポーツマネジメントコースの教養選択科目、スポーツトレーナーコースの教養選択科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの教養選択科目	科目ナンバリング	11220125 12220142 13220128	

1. 授業のねらい・概要

私たちは日ごろ各メディアを通じ、人口・年収といった様々な数値データを目にしている。しかし、その全てが正しいデータ処理と解釈がされているわけではない。統計とは様々なデータを客観的に取り扱い、正しく評価するためのツールであり、スポーツ分野でも広く利用されている。例えば、競技データの検討、スポーツ製品の市場評価などにも用いられ、その利用価値は高い。本講義では初学者からでも学べるように身近な現象を取り上げ、表計算ソフトや無料の統計ソフトを用い、データの取得やその分析体験を通して、データを正しく扱う能力と読み取る能力を養うことを目標とする。

2. 授業の進め方

パワーポイント、板書等により授業を展開し、学生はコンピュータ教室で実際にPCを操作しながら、具体的統計手法を学ぶ。

3. 授業計画

1. 統計学とはなにか	9. 帰無仮説と検定の概念
2. 調査手法とデータの種類	10. 検定用データの取得（履修者が実際に取得）
3. データの種類と代表値	11. 相関分析 I（集計・基本統計量・散布図）
4. 課題データの取得（履修者が実際に取得）	12. 相関分析 II（相関係数と有意水準）
5. データ集計（集計・度数処理）	13. 2群の差の検定 I（対応のある t 検定）
6. データ可視化（図表による表現）	14. 2群の差の検定 II（対応の無い t 検定）
7. データ分散 I（平均値と標準偏差）	15. 総合演習
9. データ分散 II（信頼区間）	*本講義はコンピュータ教室で行う。

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

講義はシラバスに則って進行するため、各テーマについて予め調べておくこと。加えて、各講義で学んだ各統計・データ処理手法について理解を深め、実際に処理できることが重要である。なお、各講義における準備学習時間は2時間程度を要する。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題に関する詳細解説は講義内にておこなう。また、最終課題のフィードバックは出題意図・解答ならびに理解すべき点等について最終課題終了後に実施する。

6. 授業における学修の到達目標

本講義では、データ処理に関する基本的な実践能力の習得を目指す。具体的には EXCEL などの表計算ソフトや無料の統計ソフトを利用し、データを正しく扱う能力と読み取る能力を養うことを目標とする。

7. 成績評価の方法・基準

各回の課題実施状況（50%）、最終課題（50%）を基準として総合的に評価する。

8. テキスト・参考文献

テキストは特に指定しない。参考図書は以下に加え、授業中に適宜紹介する。また、プリントを配布することがある。

参考図書：清水 優菜・山本 光 JASP で今すぐはじめる統計解析入門 講談社（ISBN-13：978-4065292945）

9. 受講上の留意事項

本講義ではPCを使ったデータ処理と統計の基礎を学ぶため、Microsoft Excelの基本操作が可能であることが履修条件となる（コンピュータリテラシB受講済み、もしくは同等の操作技能を有する）。また、講義内で各テーマに即したデータ取得を学生間相互で実施するため、積極的に参加することが重要である。履修希望者が定員を超えた場合には抽選となることがあるため、希望者は初回講義に必ず参加すること。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当なし。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

スポーツの科学A		講義	講師 菅谷 美沙都 教授 谷口 英規 非常勤講師 小野 壮二郎	
科目カテゴリ	スポーツマネジメントコースの教養 選択科目、スポーツトレーナーコースの教養選択科目 教職科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの教養選択科目 教職科目	科目ナンバリング	11220132 11510104 12220148 12510104 13220129 13510104	

1. 授業のねらい・概要

スポーツとは「日常からの解放」という原義を包含しつつ、現代においては「職業」、「学生の課外活動」、「趣味」、「健康維持」など様々なスポーツの在り方が存在し、人々の日常生活や社会生活に広く取り入れられている。スポーツの社会的価値が認められつつある一方で、近年はスポーツという文化が内包する負の側面（暴力の許容等）についても露呈されており、我々はこうした問題を看過することはできない。本講義では、スポーツをあらゆる側面から多面的に捉え、現代社会におけるスポーツの価値を学ぶとともに、スポーツ実践者としてスポーツとどのように向き合うべきか、理論と実技を通じて一人一人が深く再考する講義としたい。

2. 授業の進め方

本講義は、理論と実技の混合型講義である。講義においては、スポーツの起源やスポーツ特有のゲーム性、スポーツを行なう上でのスポーツマンシップの姿勢やフェア志向の考え方を概観する。実技においては、バスケットボールやソフトボールといったチームスポーツを体験する。

3. 授業計画

1. ガイダンス（菅谷）	9. 基本的なシュート（小野）
2. スポーツの起源と歴史（菅谷）	10. 戦術や連携プレー（小野）
3. スポーツにおける「ゲーム」と「試合」（菅谷）	11. 投球基礎【キャッチボール】（谷口）
4. 現代スポーツの諸問題（菅谷）	12. 守備基礎【ゴロ捕球・フライ捕球】（谷口）
5. スポーツマンシップとフェア志向（菅谷）	13. 打撃基礎【トスバッティング】（谷口）
6. バスケットボールの特性と基本動作（小野）	14. ゲーム①【ケースを設定】（谷口）
7. ボールコントロールの指導①ドリブル（小野）	15. ゲーム②【チーム毎に戦術を立てる】（谷口）
8. ボールコントロールの指導②パスとキャッチ（小野）	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

講義はシラバスに則って進行するため、各テーマについて予め疑問に思うこと、知りたいことを考察しておくこと。また、レジュメを振り返りながら講義内容に関して理解しているかを確認し、疑問に思ったこと等を次回の講義で質問できるようにまとめておくこと。これらの準備学修には2時間程度が必要である。実技に関しては、可能な範囲で繰り返し練習すること。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポート提出後、解答、要点等を解説し、フィードバックする。

6. 授業における学修の到達目標

スポーツをあらゆる側面から多面的に捉える能力を身につけることを目標とする。

7. 成績評価の方法・基準

菅谷担当分は課題レポート（40%）として実施し、小野担当分（30%）、谷口担当分（30%）の実技評価と合わせて評価する。

8. テキスト・参考文献

テキストは基本的には使用しない。講義レジュメを適宜配布する。

9. 受講上の留意事項

実技の際、服装はスポーツに適したものを着用し、その他、各担当の先生の指示に従うこと。また、爪は短く切り、ネックレス、ピアス等は、危険なので外すこと。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

スポーツの科学B		講義	講師 菅谷 美沙都 教授 谷口 英規 非常勤講師 小野 壮二郎	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの教養 選択科目、スポーツトレーナーコースの教養選択科目 教職科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの教養選択科目 教職科目	科目ナンバリング	11220133 11510105 12220149 12510105 13220130 13510105	

1. 授業のねらい・概要

スポーツとは「日常からの解放」という原義を包含しつつ、現代においては「職業」、「学生の課外活動」、「趣味」、「健康維持」など様々なスポーツの在り方が存在し、人々の日常生活や社会生活に広く取り入れられている。スポーツの社会的価値が認められつつある一方で、近年はスポーツという文化が内包する負の側面（暴力の許容等）についても露呈されており、我々はこうした問題を看過することはできない。本講義では、スポーツをあらゆる側面から多面的に捉え、現代社会におけるスポーツの価値を学ぶとともに、スポーツ実践者としてスポーツとどのように向き合うべきか、理論と実技を通じて一人一人が深く再考する講義としたい。

2. 授業の進め方

本講義は、理論と実技の混合型講義である。講義においては、スポーツの科学 A の発展的な内容として、運動部活動をテーマとしたグループワークを実施し、シナリオ学習を通じて議論を深める。実技においては、バスケットボールやゴルフといった球技スポーツを体験し、それぞれのスポーツのルールや技術、戦術を学ぶ。

3. 授業計画

1. ガイダンス（菅谷）	9. オンボールスクリーンの攻防（小野）
2. 自身の運動・スポーツ経験を語る（菅谷）	10. 戦術及び実践形式（小野）
3. グループワーク①：事例から学ぶ（菅谷）	11. ゴルフ・ルールの説明・スウィング（谷口）
4. グループワーク②：部活動の問題点（菅谷）	12. ゴルフ・アプローチ練習（谷口）
5. グループワーク③：理想の部活動を描く（菅谷）	13. ゴルフ・プラスチックボール打ち（谷口）
6. ボールコントロール及び基本的なシュート（小野）	14. ゴルフ・パター練習（3ヶ所）（谷口）
7. 連係プレー（小野）	15. ゴルフ・パター（ホールを作成してスコア記入）（谷口）
8. オフボールスクリーンの攻防（小野）	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

講義はシラバスに則って進行するため、各テーマについて予め疑問に思うこと、知りたいことを考察しておくこと。また、レジュメを振り返りながら講義内容に関して理解しているかを確認し、疑問に思ったこと等を次回の講義で質問できるようにまとめておくこと。これらの準備学修には2時間程度が必要である。実技に関しては、可能な範囲で繰り返し練習すること。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポート提出後、解答、要点等を解説し、フィードバックする。

6. 授業における学修の到達目標

スポーツをあらゆる側面から多面的に捉える能力を身につけることを目標とする。

7. 成績評価の方法・基準

菅谷担当分は課題レポート（40%）として実施し、小野担当分(30%)、谷口担当分(30%)の実技評価と合わせて評価する。

8. テキスト・参考文献

テキストは基本的には使用しない。講義レジュメを適宜配布する。

9. 受講上の留意事項

実技の際、服装はスポーツに適したものを着用し、その他、各担当の先生の指示に従うこと。また、爪は短く切り、ネックレス、ピアス等は、危険なので外すこと。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

日本史概説		講義	教授 中村 光一
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの教養選択科目、スポーツトレーナーコースの教養選択科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの教養選択科目	科目ナンバリング	11220105 12220126 13220131

1. 授業のねらい・概要

日本の歴史を時代区分した場合、古代・中世・近世・近現代の4つに分ける考え方がある。もし1セメスターの中でこれらすべてを網羅的に見ていくとすると、一つの時代についておよそ3, 4コマで対応することになるが、それでは大学生にとっての教養科目としてあまりに茫漠たる内容とならざるをえない。

そこで、本講義は対象を8, 9世紀のおよそ200年間にしぼり、その間のわが国の政治、社会、文化の様相を見ていくことで日本史の概説にあてたいと思う。

対象をこの時期とした第一の理由は、講義担当者がこれまで8, 9世紀史を主な研究対象としてきたことである。第二の理由は、「律令国家」の時代と呼ばれるこの時期に、前近代を規定する様々な法制度が確立されていること、また、この時期に都の置かれた奈良・京都が古都として、今日でも日本人のいわば「心のふるさと」としての地位を占めていると考えるからである。高校の日本史の時間であればわずかに数時間の講義で終えてしまう部分を、じっくりと解説していきたいと考えている。

2. 授業の進め方

講義形式で授業を進めるが、受講生の理解をより深めるため、パワーポイント等のAV機器を活用したいと思う。

3. 授業計画

1. 7世紀後半期の東アジア情勢と日本	9. 奈良朝政治の諸相④ 称徳・道鏡政権
2. 律令国家の構造① —統治のしくみ	10. 光仁から桓武へ
3. 律令国家の構造② — 一般農民の生活と税の負担	11. 『万葉集』の時代
4. 藤原京から平城京へ	12. 征夷と造都
5. 奈良仏教	13. 三代の平安
6. 奈良朝政治の諸相① 長屋王の悲劇	14. 平安貴族の生活
7. 奈良朝政治の諸相② 天然痘と奈良朝政治	15. まとめ —律令国家二百年をふりかえって
8. 奈良朝政治の諸相③ 藤原仲麻呂政権	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

前の回の講義時間の中で紹介する参考文献等を、次の講義時間までに目を通しておくこと。この準備学修には、2時間程度が必要である。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験の際、受験者に対して出題意図・解答のポイントについて解説を行う。

6. 授業における学修の到達目標

「日本古代史」について理解を深め、講義で取り上げた事項についてそれぞれ簡単な説明ができる程度の知識を有すること。

7. 成績評価の方法・基準

試験の結果（70%）、授業への取り組み姿勢（30%）。講義への積極的な参加を希望する。

8. テキスト・参考文献

テキストは特に指定せず、必要に応じて講義プリントを配付することがある。その試験持ち込みは不可であるため、ノ

ートを別に用意して講義を受講すること。参考文献は講義の中で随時紹介していくので、図書館を利用するほか、新書レベルの書籍は各自購入して読むように心がけてほしい。

9. 受講上の留意事項

授業に出ることは必要条件であって、決して十分条件ではない。また、授業では「ノートに写す」ことも必要だが「ノートを作る」ことも重要である。板書、投影したものを単に写していくだけでは、本当にその講義の内容を理解したことにはならないということに気づいてほしい。なお、本講義では歴史上の人物や法令など固有名詞が頻出するので、あらかじめ高校程度の日本史の知識を修得しておいてほしい。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は、博物館学芸員としての実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

文化交流史		講義	教授 中村 光一	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの教養 選択科目、スポーツトレーナーコー スの教養選択科目 柔道整備師コースの教養選択科目 救急救命士コースの教養選択科目		科目ナンバリング	11220106 12220127 13220132

1. 授業のねらい・概要

「島国日本」という言葉から、我々は前近代においては、日本が政治的あるいは文化的に他国から孤立した存在であったと考えがちである。しかし、鎖国体制下の時代においてさえも、わが国が中国・朝鮮をはじめ東アジアの各国と密接な結びつきを持ち、それらの国々からの強い影響を受けてきたことを見落としてはならないだろう。また、世界的には「大航海時代」と呼ばれる時代には、遠くスペイン・ポルトガル・オランダ等の国々とも交流があったことも忘れてはならない。本講義では、主に前近代を対象として、列島へのヒトの移動をプロローグとし、そこから通史をたどる形を取りながら日本に対する諸外国からの文化の伝播、あるいは逆にそれらの国々への日本文化の与えた影響について考えていきたいと思う。

基本的には1コマで一つの事例を取り上げる形で講義を進める予定である。なお、半期という期間の問題もあり、トピックを取り上げる形で講義を行うことをあらかじめ断っておきたい。

2. 授業の進め方

講義形式で授業を進めるが、受講生の理解をより深めるため、パワーポイント等のAV機器を活用したいと思う。

3. 授業計画

1. 東アジア世界の中の日本	9. 勘合貿易と室町文化
2. 「日本人」はどこから来たか	10. キリスト教の伝来と南蛮文化
3. 「魏志倭人伝」は語る	11. 鎖国体制と蘭学の時代
4. 仏教の伝来と日本人の宗教観	12. 琉球王国と薩摩藩
5. 遣唐使と正倉院の文物	13. 北方との交流
6. 朝鮮・渤海との交流	14. 開国と維新
7. 上野三碑と渡来人の入植	15. 近現代への展望—まとめにかえて
8. 平氏政権と日宋貿易	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

前の回の講義時間の中で紹介する参考文献等を、次の講義時間までに目を通しておくこと。この準備学修には、2時間程度が必要である。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験の際、受験者に対して出題意図・解答のポイントについて解説を行う。

6. 授業における学修の到達目標

「日本における文化交流の歴史」について理解を深め、講義で取り上げた事項についてそれぞれ簡単な説明ができる程度の知識を有すること。

7. 成績評価の方法・基準

試験の結果（70%）、授業への取り組み姿勢（30%）。講義への積極的な参加を希望する。

8. テキスト・参考文献

テキストは特に指定せず、必要に応じて講義プリントを配付することがある。その試験持ち込みは不可であるため、ノートを別に用意して講義を受講すること。参考文献は講義の中で随時紹介していくので、図書館を利用するほか、新

書レベルの書籍は各自購入して読むように心がけてほしい。

9. 受講上の留意事項

授業に出ることは必要条件であって、決して十分条件ではない。また、授業では「ノートに写す」ことも必要だが「ノートを作る」ことも重要である。板書、投影したものを単に写していただくだけでは、本当にその講義の内容を理解したことにはならないということに気づいてほしい。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は、博物館学芸員としての実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

日本文化概論		講義	教授 中村 光一
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの教養選択科目、スポーツトレーナーコースの教養選択科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの教養選択科目	科目ナンバリング	11220107 12220128 13220133

1. 授業のねらい・概要

「日本文化」あるいは「伝統文化」という言葉を聴いて、諸君はいかなるイメージを頭に描くだろうか。能や歌舞伎、文楽といった伝統芸能の数々を思い浮かべる者もいるであろうし、神社や城といった建造物、そこに収められている様々な工芸作品、あるいは寿司や蕎麦といった和食のメニューを考える者もいるかもしれない。もちろん、この問いには何が正しく何が間違っているという解答はない。我々の祖先が営んだ生の中で形作られてきた、有形・無形のさまざまな遺産を総称して「日本文化」「伝統文化」と捉えることができるのではないだろうか。

本講義は主に前近代を対象として、基本的には1コマで一つの事例を取り上げることで、時には外国からの強い影響を受け、また時には固有の展開を見せながら発展してきた「日本文化」、及びそれを構成した様々な要素（文物、芸能、その他）を紹介していきたいと考えている。

もとより、半期という期間の中で「日本文化」を網羅的に述べることは困難であり、トピックを取り上げる形で講義を行うことをあらかじめ断っておきたい。

2. 授業の進め方

講義形式で授業を進めるが、受講生の理解を助けるためパワーポイント等のAV機器を活用したいと思う。

3. 授業計画

1. 「日本文化」を概観するー導入	8. 火縄銃ー技術の移入
2. 縄文と弥生	9. 茶の湯ー極小の宇宙
3. 古墳	10. 城郭ー多賀城と姫路城
4. 神社と寺院ー固有と外来	11. 伝統芸能①ー能楽
5. 東大寺盧遮那大仏 ー8世紀の国家プロジェクト	12. 伝統芸能②ー歌舞伎
6. 平等院鳳凰堂ー浄土への思い	13. 浮世絵ージャポニスムへの影響
7. 金閣と銀閣ー禅の文化	14. 寿司・蕎麦・天ぷらー「和食」の成立
	15. 近現代への展望ーまとめにかえて

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

前の回の講義時間の中で紹介する参考文献等を、次の講義時間までに目を通しておくこと。この準備学修には、2時間程度が必要である。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験の際、受験者に対して出題意図・解答のポイントについて解説を行う。

6. 授業における学修の到達目標

「日本文化」について理解を深め、講義で取り上げた事項についてそれぞれ簡単な説明ができる程度の知識を有する。

7. 成績評価の方法・基準

試験の結果（70%）、授業への取り組み姿勢（30%）。講義への積極的な参加を希望する。

8. テキスト・参考文献

テキストは特に指定せず、必要に応じて講義プリントを配付することがある。その試験持ち込みは不可であるため、ノ

ートを別に用意して講義を受講すること。参考文献は講義の中で随時紹介していくので、図書館を利用するほか、新書レベルの書籍は各自購入して読むように心がけてほしい。

9. 受講上の留意事項

授業に出ることは必要条件であって、決して十分条件ではない。また、授業では「ノートに写す」ことも必要だが「ノートを作る」ことも重要である。板書、投影したものを単に写していくだけでは、本当にその講義の内容を理解したことにはならないということに気づいてほしい。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は、博物館学芸員としての実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

群馬の歴史と文化		講義	教授 中村 光一	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの教養選択科目、スポーツトレーナーコースの教養選択科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの教養選択科目		科目ナンバリング	11220108 12220129 13220134

1. 授業のねらい・概要

本学部には、県内出身者のほか、近県、遠くは外国からの留学生も多数在籍している。そして、県外出身者はもちろんのこと、県内出身の大部分の学生にしても、本学の2つのキャンパスが置かれている群馬の地がどのような歴史を辿ってきたのか、おそらくこれまでそれほど深く意識し、学んできたことはなかったのではないだろうか。

本科目では、人生の中の貴重な4年間を過ごすことになる群馬県域（明治時代以前は大方は上野国）がどのような歴史を歩んできたのか、古代から現代まで、主に時代を下る形で講義していきたいと思う。もとより、半期という期間の中で「群馬県の歴史」を網羅的に述べることは困難であり、トピックを取り上げる形で講義を行うことをあらかじめ断っておきたい。

2. 授業の進め方

講義形式で授業を進めるが、受講生の理解を助けるため、パワーポイント等のAV機器を活用したいと思う。

3. 授業計画

1. 群馬の夜明け	9. 縁切寺満徳寺
2. 古墳時代の群馬県地域	10. 天明の浅間焼け
3. 上野三碑とその時代	11. 温泉大国群馬
4. 「三十八年戦争」と上野国	12. 群馬県の誕生
5. 『延喜式』に見る古代の上野国	13. 富岡製糸場と新町屑糸紡績所
6. 新田義貞と上野の武士	14. 工業都市太田の原点
7. 戦国時代の上野国	15. 今日の群馬
8. 中山道上州路を歩く	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

前の回の講義時間の中で紹介する参考文献等を、次の講義時間までに目を通しておくこと。この準備学修には、2時間程度が必要である。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験の際、受験者に対して出題意図・解答のポイントについて解説を行う。

6. 授業における学修の到達目標

「群馬県域の歴史と文化」について理解を深め、講義で取り上げた事項についてそれぞれ簡単な説明ができる程度の知識を有すること。

7. 成績評価の方法・基準

試験の結果（70%）、授業への取り組み姿勢（30%）。講義への積極的な参加を希望する。

8. テキスト・参考文献

テキストは特に指定せず、必要に応じて講義プリントを配付することがある。その試験持ち込みは不可であるため、ノートを別に用意して講義を受講すること。参考文献は講義の中で随時紹介していくので、図書館を利用するほか、新書レベルの書籍は各自購入して読むように心がけてほしい。

9. 受講上の留意事項

授業に出ることは必要条件であって、決して十分条件ではない。また、授業では「ノートに写す」ことも必要だが「ノートを作る」ことも重要である。板書、投影したものを単に写していくだけでは、本当にその講義の内容を理解したことにはならないということに気づいてほしい。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は、博物館学芸員としての実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

スポーツと文化		講義	教授 平沢 信康
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの教養選択科目、スポーツトレーナーコースの教養選択科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの教養選択科目	科目ナンバリング	11220110 12220131 13220135

1. 授業のねらい・概要

今日、世の中には様々なスポーツ競技種目が存在する。世界中の人々がプレーを楽しみ、また地球上の数多くの人々がスポーツを観戦している。本講義では、スポーツの歴史を先史時代や古代より現代まで、人類史的観点から多角的に考察するものである。

とくに文化史の視点から、ときには文化人類学的観点も交えながら、スポーツ史について検討する。テレビや新聞などで報じられる現代のスポーツ・ジャーナリズム情報とは異なる、世界史的教養を文明史の視点から深める講義としたい。

2. 授業の進め方

基本的には、講義内容の概要を記したレジュメを G メールで事前配信し、その講義要旨に即して解説する。適宜 PowerPoint を活用してテーマに関係する画像をスクリーンに映して紹介しつつ、そのビジュアルな情報を以てレクチャーの発話・文字による理解を補う方法で進める。

よって受講生諸君には、講義要旨を読みつつ、スクリーンにも注視するよう努めてほしい。

3. 授業計画

1. 「スポーツ」とは何か? — 語義と語法	9. 近代フットボールの成立と派生形
2. スポーツの歴史 — その概観と種類 (類別)	10. 球を棒等で打つ競技の誕生と歴史
3. オリンピックの歴史と文化	11. 体操という身体運動文化の近代史
4. 祭典・祝祭とスポーツ	12. 近代球技スポーツの文化史
5. スポーツと宗教	13. 日本における近代スポーツの紹介と導入
6. スポーツと社会階級	14. 近代日本におけるスポーツ文化の普及と発展 — 学生野球の歴史を中心に
7. 体育スポーツ施設の文化史	15. 西欧諸国におけるスポーツクラブという組織文化
8. 足で蹴る球技スポーツの歴史 — フットボールとバスケットボールを中心に	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

資料を pdf 版で事前送信するので、その講義要旨の当該ページを次回講義までに通読して予習（30 分程度）しておくこと。興味をひかれた情報については、受講者各自が所有するスマホ等で検索し、積極的に確認してもらいたい。

また講義終了後、講義要旨（レジュメ）の内容を読み返し、気になる事項や人名あるいは地図についてインターネットで検索して、あるいは関連文献で学習を深掘りし、復習（30 分程度）しておくこと。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学期末試験について特に注意を喚起すべき事項（多かった誤答など）等の講評を G メールで履修者全員に対して配信することでフィードバックする。

6. 授業における学修の到達目標

文化としてのスポーツの創造・発祥や誕生の歴史（ルーツや創始者を含む）および文化としてのスポーツの国際的な伝播について理解を深め、説明できるようになることをめざす。

歴史のみならず、併せて世界の地理に関する認識・理解も高める。

7. 成績評価の方法・基準

学期末に実施する筆記試験の点をもって評価する。

8. テキスト・参考文献

木村毅『日本スポーツ文化史』ベースボール・マガジン社，1978年
ハイナール・ギルマイスター『テニスの文化史』大修館書店，1993年
寒川恒夫編著『スポーツ文化論』杏林書院，1994年
杉本厚夫『スポーツ文化の変容：多様化と画一化の文化秩序』世界思想社，1995年
鈴木守，山本理人編著『スポーツ文化の現在（いま）』道和書院，2000年
稲垣正浩編著『スポーツ文化の「現在」を探る』叢文社，2002年
井上俊，菊幸一編著『よくわかるスポーツ文化論』ミネルヴァ書房，2012年

9. 受講上の留意事項

講義中は私語を慎み，居眠りをしないこと。
可能な限り図書館に行って，上記参考文献をはじめとするスポーツ文化（史）の文献に親しむこと。
インターネットでの検索を厭わず，億劫がらずに，こまめに調べる態度と習慣を養うこと。
当該回の講義要旨全体を熟読して，復習すること。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

群馬の産業

2026年度

休講

心理学概論

2 0 2 6 年度

休講

青年の心理

2026年度

休講

ビジネス法学入門		講義	教 授 吉田 一康
科目カテゴリ	スポーツマネジメントコースの教養選択科目、スポーツトレーナーコースの教養選択科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの教養選択科目	科目ナンバリング	11220114 12220134 13220139

1. 授業のねらい・概要

ビジネスに関する法律の基本的な事項について、幅広く概略を理解することを目標とします。

社会では、アルバイトをしたり、将来、会社に就職する場合、労働法が関係します。商品を買ったり売ったりする取引は民法などが関係します。お金をだまし取られたなどの場合は、詐欺について規定している刑法が関係します。このように、ビジネスに法律知識は必須であり、是非とも知っておかなければならない事項について学びます。また、2009年から開始された裁判員制度についても理解します。

2. 授業の進め方

- ① 50～60分 配布するレジュメに従って、パワーポイントを使用して講義を行います。
- ② 30～40分 配布する練習問題に回答して、その後、解答を行います。また、質問・意見があれば討議を行います。

3. 授業計画

1. 講義紹介 2. 法律とは（定義、強制力） 3. 憲法（ビジネス関係） 4. 刑法（ビジネス関係） 5. 刑事訴訟（逮捕から裁判まで） 6. 裁判員制度 7. 民法（総則） 8. 民法（物権）	9. 民法（債権） 10. 商法・会社法 11. 労働法 12. スポーツ法（移籍規定など） 13. スポーツ代理人（契約交渉など） 14. 知的財産法（特許権、実用新案権など） 15. 民事訴訟（訴えたり、訴えられたり）
---	---

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

各講義の内容に関する参考文献の該当箇所を読んでくること（1時間程度）。講義後、授業内容を復習して、レジュメ及び練習問題の解答を理解しておくこと（1時間程度）。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- ① 各講義で行う練習問題の後に、解答及び説明を行います。
- ② 期末試験の後に、解答を行います。

6. 授業における学修の到達目標

- ① 「六法」について、基本的な事項を理解できること。
- ② 議論がある法律問題について独自の価値観を形成すること。

7. 成績評価の方法・基準

評価は、上記6に示した学修の到達目標を、ルーブリック評価表を基に4段階評価（A80点以上 B70～79点 C60～69点 D（不可）60点未満）で採点します。ルーブリック評価表に関する詳細は、第1回講義内で別途説明します。

具体的には、積極性10～20%＋期末試験80～90%で評価します。積極性は、受講態度や積極性で評価して、客観的に認識できる遅刻、私語・居眠りに対する注意の場合、減点します。期末試験の受験資格は、全講義の3分の2以上に出席した者とし、出題範囲は全講義で、特に上記6①を主とする専門的知識の理解度の確認をする穴埋め問題と、同②に関する記述問題を出題します。

8. テキスト・参考文献

毎回、レジュメと練習問題を配布し、テキストは使用しませんので、特に購入する必要はありません。自習のための参考文献として下記のものを挙げます。

- ① 伊藤正巳・加藤一郎編『現代法学入門』（有斐閣双書，第4版，2005）1320 円
- ② 末川博編『法学入門』（有斐閣双書，第6版補訂版，2014）1650 円
- ③ 石川明編『フレームワーク法学入門』（不磨書房，2007）2640 円

9. 受講上の留意事項

私語・態度不良など他の受講者の迷惑となる行為や、遅刻・中途退席などの目立つ受講者については、評価を減点又は受講を制限します。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は、不動産会社等における法務の実務経験を活かして指導します。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

日本国憲法		講義	教 授 吉田 一康	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの教養 選択科目、スポーツトレーナーコー スの教養選択科目 教職科目 柔道整復師コースの教養選択科目 教職科目 救急救命士コースの教養選択科目 教職科目	科目ナンバリング	11220115 11510101 12220135 12510101 13220140 13510101	

1. 授業のねらい・概要

日本国民として知っておかなければならない国民の権利・義務や国の基本的な統治形態について理解します。特に、最近、問題となっている憲法改正や皇位継承、自衛隊の海外活動については、論点を詳細に考察して、自分の意見を持つことを目的とします。また、2009年から開始された裁判員制度に適切に対処できる準備をしておきます。

以上の学習を通じて、生命の尊厳を理解し、倫理観と責任感、幅広い視野を持った心豊かな人間性を身につけます。更に、国際的な視野を持って活動できる能力を有して国際平和の実現に寄与できる人間となることを目標とします。

「ビジネス法学入門」の基礎的な部分と関係します。

2. 授業の進め方

- ① 50～60分 配布するレジュメ（要約の印刷物）に従ってパワーポイントを使用して講義を行います。憲法の第1章「天皇」第1条から第11章「補則」第103条まで、重要事項について、基本的に条文番号順に説明します。
- ② 30～40分 配布する練習問題に回答して、その後、解答を行います。また、質問・意見があれば討議を行います。

3. 授業計画

1. 講義紹介 2. 憲法とは（憲法制定、硬性・軟性憲法） 3. 国民主権と天皇制（象徴天皇、皇位継承） 4. 戦争放棄（自衛戦争、侵略戦争） 5. 第9条関係（自衛隊の海外派遣） 6. 憲法の主体（日本国民、外国人、法人） 7. 基本的人権（法の下での平等） 8. 自由権（思想及び良心の自由など）	9. 社会権（生存権など） 10. 財産権・人身の自由（財産権の不可侵など） 11. 参政権（選挙権、被選挙権、公務就任権） 12. 国会（二院制、国政調査権） 13. 内閣（議院内閣制、解散権） 14. 裁判所（裁判員制度） 15. 司法、財政、地方自治、憲法改正など
---	---

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

各講義の内容に関係する参考文献の該当箇所を読んでくること（1時間程度）。講義後、授業内容を復習して、レジュメ及び練習問題の解答を理解しておくこと（1時間程度）。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- ① 各講義で行う練習問題の後に、解答及び説明を行います。
- ② 期末試験の後に、解答を行います。

6. 授業における学修の到達目標

- ① 国民の権利・義務や国の基本的な統治形態について理解できるようになること。
- ② 戦争放棄や自由権などの政治問題について独自の価値観を形成すること。

7. 成績評価の方法・基準

評価は、上記6に示した学修の到達目標を、ルーブリック評価表を基に4段階評価（A80点以上 B70～79点 C60～69点 D（不可）60点未満）で採点します。ルーブリック評価表に関する詳細は、第1回講義内で別途説明します。

具体的には、積極性10～20%＋期末試験80～90%で評価します。積極性は、受講態度や積極性で評価して、客観的に認

識できる遅刻、私語・居眠りに対する注意の場合、減点します。期末試験の受験資格は、全講義の3分の2以上に出席した者とし、出題範囲は全講義で、特に上記6①を主とする専門的知識の理解度の確認をする穴埋め問題と、同②に関する記述問題を出題します。

8. テキスト・参考文献

毎回、レジュメと練習問題を配布し、テキストは使用しませんので、特に購入する必要はありません。自習のための参考文献として下記のものを挙げます。

①小嶋和司・大石眞『憲法概観』（第7版）有斐閣双書 2011年（2090円）

②木下智史・只野雅人『新コンメンタール憲法』日本評論社 2015年（5060円）。

9. 受講上の留意事項

私語・態度不良など他の受講者の迷惑となる行為や、遅刻・中途退席などの目立つ受講者については、評価を減点又は受講を制限します。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は、不動産会社等における法務の実務経験を活かして指導します。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

海外研修		実習	国際交流委員会	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの教養選択科目、スポーツトレーナーコースの教養選択科目		科目ナンバリング	11220134

1. 授業のねらい・概要

本講座は、他国の人との交流を通じて異文化を理解し、伝えることの楽しさや重要性を肌で感じ実践することで、積極性を養いコミュニケーション力の向上を図ることを目的とします。また、海外の国際機関、グローバル企業、日系企業、並びに様々な文化施設などを訪問、視察することで、海外の社会・文化・経済状況を実際に自分の目で見て現実を把握し、また一方で現在日本が置かれている状況を客観的に捉え、グローバルな視点を持ったビジネス展開を目指す学生にとって大きな刺激となる機会を提供します。本講座受講後、人生観や生活態度、学業に対する考え方が変化し、将来を見据えた計画・行動がとれるようになること、学生時代に何をすべきかをよく考え、自らの能力を高める行動がとれるようになることが期待されます。

2. 授業の進め方

渡航前に計3～4回の事前講義を実施します。その後、現地に渡り、滞在期間中、多様な施設・機関・企業を訪問しながら、「絵手紙ワークショップ」を通して現地の方々と交流します。このほか、市内の文化施設などの視察を通じて、歴史や文化に触れる時間も確保します。なお、帰国後にレポートを提出することが求められます。

3. 授業計画

1. 渡航前：海外渡航に関する注意喚起，訪問先の基礎知識等に関する事前講義（3～4回）	
2. 現地滞在中：絵手紙ワークショップ開催，各所訪問（国際交流，講話受講，所内視察等），市内視察等	
3. 帰国後：レポート提出	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

渡航先の文化、気候、地理的情報、社会情勢等を調べておくこと。また、訪問予定先の機関・企業についてウェブサイト等で情報を収集・把握し、訪問当日に質問を投げかけられるようまとめておくこと（2時間程度）。

パスポート、旅行保険、クレジットカード等の取得に関し、予め定められた期限までに各自しっかりと準備すること。日本国籍以外で、入国に際してビザが必要な学生は、然るべきタイミングで取得すること。なお、事前講義の無断欠席、ビザ取得の見込みなし等の事情が明らかになった場合、当該年度の参加を諦めてもらうことがあります。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

帰国報告会にて提出された研修レポートへのフィードバックと意見交換等を実施します。研修レポートについては個人の研修目標設定と達成状況について報告してもらいます。

6. 授業における学修の到達目標

講義やゼミのような通常の座学では得られない経験を得ることで、改めて日本を客観的に見つめると同時に、より広い国際的視野を持ち、多くの人々とコミュニケーションを図れる能力を養成します。また、将来に対して積極的に考え、計画し、行動できるようにします。

7. 成績評価の方法・基準

事前講義への参加状況と受講態度（70%）、帰国後のレポート（30%）の提出等の状況を見て、総合的に評価します。

8. テキスト・参考文献

事前講義や現地訪問先で配布される資料を用います。

9. 受講上の留意事項

- ① 訪問先や実施時期は別途告知し、実施にあたっての事前説明会を行う予定。
- ② 費用は、渡航費、宿泊費、各種視察費等で、合計 40 万円前後（参加人数により変動し、飲食代・娯楽代等は除く）を予定しています。
- ③ 人数が 10 名に満たない場合は本講座を催行しない場合があります。

10. 実務経験のある教員等による授業科目

該当します。本授業は、金融機関、製造業、サービス業界において海外勤務を含む実務経験を有する教員が指導します。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

スポーツマネジメント研修		実習	国際交流委員会
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの教養 選択科目、スポーツトレーナーコー スの教養選択科目	科目ナンバリング	11220135

1. 授業のねらい・概要

スポーツマネジメントに関して、その最先端を走るアメリカ合衆国において、米国 4 大プロスポーツのひとつである MLB 傘下ミルウォーキー・ブルワーズの春季トレーニングキャンプ（於：メリーベールベースボールパーク、アリゾナ州フェニックス市）を視察し、プロとは異なる地域密着型のアマチュアスポーツの現場例として、CSUF（カリフォルニア州立大学フラトン校）における強化指定部活動の運営を視察する（順序は現時点では未定）。また、柔道整復師やスポーツトレーナー、教職など指導者を目指す学生のために、上記 2 施設において、アメリカの科学的なスポーツ外傷・障害予防の取り組みに関して学び、実際に CSUF 所属学生アスリートに対するケアや指導を体験する。アメリカにおけるそれらの取り組みは世界をリードしており、その理論と実践は選手としても、またトレーナー等を目指す者としても非常に貴重な体験となる。

2. 授業の進め方

後期期間中に計 3 回の事前授業を実施し、春休み（3 月上旬）にロサンゼルスへ渡航する。メリーベールベースボールパークならびに CSUF 施設にて研修（順序は現時点では未定）、スポーツ外傷・障害予防の取り組みについて学び、指導実践を体験する。帰国直後にレポートを提出。

3. 授業計画

①実施までに少なくとも 3 回の事前授業として、海外渡航に関する注意喚起、視察箇所に関する事前知識、ESTA、旅行保険加入の手続き、英語等に関する講義。	③その他、メリーベールベースボールパークを視察。
②研修期間は 5 泊 7 日とし、CSUF にて、スポーツ外傷・障害予防の取り組みを研修し、実践も行う。	④帰国後にレポートを提出。

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

パスポートや ESTA、旅行保険、キャッシュカードなどの取得に関して、期限を設けているため、その期限までに各自しっかりと準備すること。また、渡航先の文化、気候、地理的情報、社会情勢等に関して調べて、質問等をまとめておくこと（2 時間程度）。日本国籍以外で米国入国に際し、ビザが必要な学生は十分な時間的余裕をもって自分で取得すること。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

帰国報告会にて研修レポートのフィードバックを行い、意見交換等実施する。

6. 授業における学修の到達目標

日本と外国のスポーツマネジメントに関する違いや最先端のトレーニング理論に関する知識を得ることを目標とする。

7. 成績評価の方法・基準

事前授業の受講態度、各施設視察、レクチャー、トレーニング体験などへの積極性（70%）、帰国後レポート（30%）の提出にて総合的に評価する。事前授業への不参加・態度不良、準備の遅れによっては、国際交流委員会の判断で、参加を諦めてもらうことがある。

8. テキスト・参考文献

事前授業や現地各地で配布される資料を用いる。

9. 受講上の留意事項

- ① 日程等の詳細は別途校内ポスター，掲示板にて告知する。費用は渡航費，宿泊費，各種施設研修費であり，合計で 50 万円前後を予定している（参加人数，為替の変動等で変更の可能性あり，また飲食費・遊興費等は除く）。
- ② 最小催行人数は 10 名であり，それに満たない場合は実施されない。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当なし。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

国際交流プログラム		演習	国際交流委員会
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの専門選択科目、スポーツトレーナーコースの専門選択科目	科目ナンバリング	11220143

1. 授業のねらい・概要

今現代社会ではインターネットを通じて瞬時に世界の情報にアクセスできますが、実際に海外を経験することの意義は非常に大きいです。本研修は、アメリカでの語学研修を通じて、英語力の向上だけでなく、異文化理解と国際的な視野の拡大を目指します。ネイティブの教員による英語学習と、日常生活での実践を通じて、コミュニケーションの楽しさと文化の違いを体感し、自分を高める研修です。また、日本企業の現地法人訪問や米大リーグ観戦を通じて、アメリカのビジネス文化とスポーツ文化にも触れます。

2. 授業の進め方

新型コロナウイルスの影響により実施が難しかったプログラムを見直し、研修をアメリカで実施します。事前授業を前期に3～4回実施し、英語や現地事情について学びます。現地での研修は7泊9日で、5日間、合計約20時間の語学授業を受けます。さらに、日本企業の現地法人訪問や米大リーグ観戦も行います。帰国後には事後レポートを提出してもらいます。研修内容、日程、授業時間などは状況により変更されることがあります。

3. 授業計画

6-7月に3～4回の事前授業として、英語および米国カリフォルニア州における事情、地理・観光、産業・経済、歴史、文化、渡航手続き等に関して講義を行います。	8-9月に1週間から10日程度（変更の可能性あり） ● 1日約4時間（合計約20時間）の語学授業 ● 日本企業の現地法人訪問 ● 米大リーグ観戦 事前授業、研修内容、日程、授業時間など状況により変更されることがあります。
--	--

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

パスポート、ESTA（電子渡航認証システム）、旅行保険、クレジットカードなどの準備（事前授業で指導）。
渡航先の文化、気候、地理的情報、社会情勢についての調査（約2時間）。
日本国籍以外の学生は、アメリカ入国に際して必要なビザの取得など手続きを確認し対応すること。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポートは担当者の指示に従って提出すること。帰国報告会にて意見交換とフィードバックを実施します。

6. 授業における学修の到達目標

正確な英語が話せなくても、外国人と積極的にコミュニケーションを図れるようになる。

7. 成績評価の方法・基準

事前授業での受講態度、研修先における語学授業での受講態度（および修了証の取得・提示）（70%）
事後の研修レポートの提出（30%）。

8. テキスト・参考文献

研修先で配布される資料を使用

9. 受講上の留意事項

参加申し込みは5-6月中に行い、研修参加費出発前指定締切日までに納付する
留学生はビザの取得が必要な場合、早めに手続きを行うこと
納付後のキャンセルは返金不可（旅行会社の規定に従う）

研修参加費 40－50 万円を予定。渡航費，語学学校，宿泊費を含む。他生活費（食事代等），現地交通費が別途必要

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

社会貢献実践		演習	教授 植松 盛夫
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの教養選択科目、スポーツトレーナーコースの教養選択科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの教養選択科目	科目ナンバリング	11220136 12220153 13220144

1. 授業のねらい・概要

大学が認定する団体（公共機関、民間団体、NPO など）でのボランティア活動等に参加することによって、地域社会になじみ、関わり、それを深め、地域課題を発見するというプロセスを通じて、問題解決に向けた構想力と実践力を身につけることをねらいとする。

このような学びは、現実にある問題に直面した際に、既存の「マニュアル」にない方法で解決を導くトレーニングであり、今後の学生諸君のライフ・キャリアにおいて重要な力となる。これはまた、現在、本学が積極的に取り組んでいるアクティブ・ラーニング（能動的な学習）の1つでもある。

以上の趣旨から、本講義は、教員が一方的に学生に知識の伝達をする講義スタイルではなく、学生が自発的に取り組み、グループ学習や現地実習、ディスカッション、結果報告会（プレゼンテーション）などを行うことにより、単位が認定されることになる。

2. 授業の進め方

実習では、学生が希望する実習先の活動期間および活動事項について、大学が認定するボランティア機関の認定を受けてから授業課に届ける。たとえば、下記のようなボランティア活動が考えられる。

- ① 県内の行政との協働
- ② 地域の商工会との協働
- ③ 地域イベント（祭り等）へのボランティア（県、市町村など）
- ④ 関連する学会やボランティア活動の発表会への参加
- ⑤ 県内大学と連携するボランティア活動
- ⑥ 地域NPO・ボランティア団体への参加
- ⑦ その他の地域活動への参加

3. 授業計画

1. ボランティア活動の基礎（講義）	9. ボランティア実習（学習支援）
2. ボランティアの歴史と諸概念（講義）	10. ボランティア実習（高崎祭）
3. ボランティアの実践事例（講義）	11. ボランティア実習（子ども食堂）
4. 災害ボランティアについて（講義）	12. ボランティア実習（しんまち商工祭）
5. 活動計画書の作成（グループ活動・演習）	13. ボランティア実習（白鳥見守り隊）
6. ボランティア活動とSDGs（講義）	14. 活動報告書の作成（演習）
7. 災害に強いまちづくり（講義）	15. 活動結果報告会（プレゼンテーション）
8. ボランティア実習（新町七夕まつり）	（※ボランティア実習については例示である）

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

- ・講義計画の講義テーマについて参考文献及び配布資料を講義までに読んでおくこと（30分程度）。
- ・5日間以上（30時間以上）の外部実習を行い、実習後に「社会貢献実践実習報告書」を作成（1件について60分程度）、提出し、それに基づいて発表（発表のための資料作成に120分程度）する。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

「社会貢献実践実習報告書」はコメントをつけて返却する。
活動結果報告会では、講評を行う。

6. 授業における学修の到達目標

- ・一市民として社会貢献実践に参加する意義や活動のなかでの自己の役割やありかたについて理解し、説明できるようになる。
- ・社会貢献実践の学外実習(5日間以上)を行い、大学での学びを実習現場で活用できるようになる。
- ・実習結果と振り返りを実習報告書に報告・提出し、次の社会貢献実践の学外実習に応用できるようになる。
- ・社会貢献実践の活動結果報告会で1年間の実習結果を発表し、その意義・役割・課題を理解し、活用できるようになる。

7. 成績評価の方法・基準

活動計画書、実習報告書などの提出課題内容（60%）と活動報告会での発表（40%）により評価する。

8. テキスト・参考文献

参考文献：田村正勝『ボランティア論-共生の理論と実践』ミネルヴァ書房，2009年
前林清和・中村浩也編著『SDGs時代の社会貢献活動』昭和堂，2021年

9. 受講上の留意事項

学校行事として「学研災」の学生傷害保険が適用されるが、その条件として実習先や日程を大学側に届け出て、必ず承認を得ることが必要である。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

公務員試験対策ゼミ A		講義	准教授 黒沢 賢一
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの教養選択科目、スポーツトレーナーコースの教養選択科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの教養選択科目 国際ビジネス学科の教養選択科目	科目ナンバリング	11220137 12220154 13220145 22200129

1. 授業のねらい・概要

公務員試験の教養試験分野の問題は大きく一般知能と一般常識(知識)に分けられるが、その可否を決するのは一般知能の問題である。一般知能はさらに判断推理、空間把握、数的推理、資料解釈などに分けられ、この授業では判断推理と空間把握について、その問題の解き方を講義する。判断推理はクイズのような問題で、空間把握はパズルのような問題である。いずれも公務員試験独特のもので、学校では習ったことがなく、最初はとまどうかも知れないが、試験に出題される問題は決まっているので、その解法パターンをひとつでも多く身につけていくことが大切である。合格ラインをこえるために必要な解法パターンはこの授業ですべて身につけることができるようにする。また判断推理と空間把握の講義と並行して、授業では一般常識の主要科目である社会科学の試験に出るポイントも解説していく。さらに最近の人物重視の試験傾向をふまえて、面接攻略のためのポイントも講義する。

科目名は公務員試験対策ゼミとなっているが、これらは就職試験にも役立つ知識であり、最近の地方公務員試験では、市町村を中心に SPI や SCOA を実施するところがあり、それらの内容にも配慮した授業内容にするので、民間企業への就職を考えている学生にも役立つ内容になる。

2. 授業の進め方

毎回の授業は、①一般知能テスト(判断推理、空間把握の過去問を教材にした頻出問題を出題)→②解説講義→③一般常識のポイント解説講義という流れで進んでいく。面接対策については講義形式をとる。

3. 授業計画

1. ガイダンス 〈判断推理〉	9. 真偽
2. 順序関係	10. 暗号
3. 時刻	〈空間把握〉
4. 位置関係	11. パズル問題(図形の分割・構成)
5. 対応関係	12. 立体図形
6. 試合の推理(リーグ戦)	13. サイコロと位相
7. 試合の推理(トーナメント戦)	〈面接対策〉
8. 命題と論理・集合算	14. 面接攻略法
	15. まとめ講義

※判断推理、空間把握のほかに社会科学分野の公務員試験に出題されるポイントも解説する。

4. 準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習は必要ないが、授業を受けた後は必ず一般知能テストで出題された問題について、授業中にとったノートとは別のノート(これを「課題ノート」と呼ぶ)に問題の解き方を詳細にまとめ直し、すべての問題について何も参照しないで解けるようになるまで、くり返し復習することが求められる。一般常識については、テキストの指定された範囲のポイントを暗記するまで反復する。そのための復習時間としては2時間以上必要になる。

5. 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

テスト、課題ノート返却時に評価のポイントなどを指摘する。

6. 授業における学修の到達目標

(1)公務員試験に出題される一般知能の解法の基礎が理解できるようになる。

- (2) 公務員試験に出題される社会科学の知識を修得する。
- (3) 公務員試験の面接に向けた準備ができるようになる。

7. 成績評価の方法・基準

授業内で実施する確認テスト(50%)と課題ノートの提出(50%)によって評価する。

8. テキスト・参考文献

- (1) 黒沢賢一著『Point Master 社会科学の論点』(三恵社) 毎回使用するので必ず持参すること。
- (2) その他の受験教材については授業の中で紹介する。

9. 受講上の留意事項

毎回、授業のはじめに一般知能のテストをするが、できなくても気にする必要はない。解説講義を聞いて、くり返し復習してできるようになればいい。解説講義はただ聞いているだけでなく、説明の内容をしっかりとメモし、ポイントを聞き逃さないようにすることが大切である。

授業中の私語やスマートフォン、イヤホン等の使用は認めない。

他の学生に迷惑となる教室内の秩序を乱す行為については厳しい態度で臨むので十分留意すること。

公務員試験合格を確実にしたいという方には、「社会科学の基礎A」も受講することをすすめる。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

公務員試験対策ゼミB		講義	准教授 黒沢 賢一
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの教養選択科目、スポーツトレーナーコースの教養選択科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの教養選択科目 国際ビジネス学科の教養選択科目	科目ナンバリング	11220138 12220155 13220146 22200130

1. 授業のねらい・概要

公務員試験の教養試験分野の問題は大きく一般知能と一般常識(知識)に分けられるが、その可否を決するのは一般知能の問題である。一般知能はさらに判断推理、空間把握、数的推理、資料解釈などに分けられ、この授業では数的推理と資料解釈について、その問題の解き方を講義する。数的推理は小、中学校で勉強した算数、数学の知識をもとに答えを求めていくもので、資料解釈は与えられた図表から情報を読み取る問題である。特に数的推理については苦手意識を持つ学生が多く見受けられるが、授業では問題を解くために必要になる算数、数学の知識を復習しながら問題を解き進めていくので得点源にすることは十分可能である。試験に出題される問題はほぼ決まっているので、それを解くための解法パターンをひとつでも多く身につけていくことが大切である。合格ラインをこえるために必要な解法パターンはこの授業ですべて身につけることができるようにする。また数的推理と資料解釈の講義と並行して、授業では一般常識の主要科目である社会科学の試験に出るポイントも解説し、さらに小論文、作文、適性検査の対策法についても講義する。

科目名は公務員試験対策ゼミとなっているが、これらは就職試験にも役立つ知識であり、最近の地方公務員試験では、市町村を中心にSPIやSCOAを実施するところもあり、それらの内容にも配慮した授業内容にするので、民間企業への就職を考えている学生にも役立つ内容になる。

2. 授業の進め方

毎回の授業は、①一般知能テスト(数的推理、資料解釈の過去問を教材にした頻出問題を出題)→②解説講義→③一般常識のポイント解説講義という流れで進んでいく。小論文、作文、適性対策については講義形式をとる。

3. 授業計画

1. ガイダンス 〈数的推理〉	9. n進法・数列
2. 整数の性質	10. 図形の計量 〈資料解釈〉
3. 方程式・不等式・速さ	11. 実数・構成比・指数・増減率 〈小論文・作文・適性〉
4. 比・割合・濃度	12. 小論文書き方講義
5. 平均算・仕事算・ニュートン算	13. 作文書き方講義
6. 給排水算・通過算	14. 適性対策講義
7. 覆面算・魔法陣・集合算	15. まとめ講義
8. 場合の数・確率	

※数的推理、資料解釈のほかに社会科学分野の公務員試験に出題されるポイントも解説する。

4. 準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習は必要ないが、授業を受けた後は必ず一般知能テストで出題された問題について、授業中にとったノートとは別のノート(これを「課題ノート」と呼ぶ)に問題の解き方を詳細にまとめ直し、すべての問題について何も参照しないで解けるようになるまで、くり返し復習することが求められる。一般常識については、テキストの指定された範囲のポイントを暗記するまで反復する。そのための復習時間としては2時間以上必要になる。

5. 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

テスト、課題ノート返却時に評価のポイントなどを指摘する。

6. 授業における学修の到達目標

- (1) 公務員試験に出題される一般知能の解法の基礎が理解できるようになる。
- (2) 公務員試験に出題される社会科学の知識を修得する。
- (3) 公務員試験の小論文、作文の書き方と適性試験対策法が身につくようになる。

7. 成績評価の方法・基準

授業内で実施する確認テスト(50%)と課題ノートの提出(50%)によって評価する。

8. テキスト・参考文献

- (1) 黒沢賢一著『Point Master 社会科学の論点』（三恵社） 毎回使用するので必ず持参すること。
- (2) その他の受験教材については授業の中で紹介する。

9. 受講上の留意事項

毎回、授業のはじめに一般知能のテストをするが、できなくても気にする必要はない。解説講義を聞いて、くり返し復習してできるようになればいい。解説講義はただ聞いているだけでなく、説明の内容をしっかりとメモし、ポイントを聞き逃さないようにすることが大切である。

授業中の私語やスマートフォン、イヤホン等の使用は認めない。

他の学生に迷惑となる教室内の秩序を乱す行為については厳しい態度で臨むので十分留意すること。

公務員試験合格を確実にしたいという方には、「社会科学の基礎B」も受講することをすすめる。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

運動学		講義	教授 大森 肇	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの専門選択科目, スポーツトレーナーコースの専門選択科目 教職科目 救急救命士コースの教養選択科目 教職科目	科目ナンバリング	11322113 11531105 13220147 13531105	

1. 授業のねらい・概要

運動学という学問分野の捉え方は単一ではない。本授業では解剖学・生理学的な観点から運動器の形態・機能を中心に運動学を捉えることにする。運動器としての筋・骨格系を概観し、レジスタンストレーニングの実例と結びつけて学ぶ。またトレーニングの効果を生み出す神経・筋のメカニズムをマクロからミクロまでの視点で学ぶ。そうしたことを通じて、自己のトレーニング経験をより深く理解し、トレーニングのスキルを高めることをねらいとしている。

2. 授業の進め方

パワーポイントによるプレゼンテーション、配布資料、板書等により授業を展開する。

3. 授業計画

1. ガイダンス 2. 多様な運動学の概念 3. 解剖学・生理学的な運動器の機能を中心とした運動学 4. 代表的な骨格筋の名称と作用様式 5. 代表的な関節運動 6. 肩および上肢を鍛えるレジスタンストレーニング 7. 胸部および腹部を鍛えるレジスタンストレーニング 8. 背部を鍛えるレジスタンストレーニング	9. 下肢を鍛えるレジスタンストレーニング 10. 強度によるレジスタンストレーニング効果の違い 11. 筋収縮の様式とレジスタンストレーニング効果 12. 神経・筋の構造と機能（マクロからミクロまで） 13. 運動単位の分類と動員パターン 14. レジスタンストレーニング期間による効果の推移 15. まとめ
--	---

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

各テーマについて予習し、理解のための基盤を作っておくこと（30分）。復習時に講義内容を改めて整理し、理解が不十分な部分は自ら調べを深め、疑問点を次のショートレポートで質問できるようにまとめておくこと（30分）。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回の授業冒頭において、前回のショートレポートで出された質問に答えることでフィードバックする。また、定期試験後に全体講評を掲示または一斉メールにてフィードバックする。

6. 授業における学修の到達目標

レジスタンストレーニングの解剖学的・生理学的な理論を学び、自己のトレーニング体験と融合させることで、指導に活かせる知識を身につけることを目標とする。

7. 成績評価の方法・基準

期末試験（70%）および受講態度（30%）を総合的に評価する。

8. テキスト・参考文献

資料を配布する。

9. 受講上の留意事項

私語、水分補給以外の飲食、授業内容に関する検索以外のスマホ・PC等の使用、居眠りの4項目を禁止する。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無
該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連
上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

発育発達論		講義	教授 西川 彰
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの専門 選択科目、スポーツトレーナーコー スの専門選択科目 教職科目 柔道整復師コース専門基礎科目 柔道整復師コース教職科目 救急救命士コースの教養選択科目 救急救命士コース教職科目	科目ナンバリング	11322205 11532209 12311203 12532209 13220210 13532209

1. 授業のねらい・概要

発達とは、成長に伴って人体に有する組織や器官が変化し、それらの諸機能が発現する過程をいう。スポーツに関わる専門職を志す者にとって、各発達期における行動様式や精神活動の特徴を把握することは、障害予防の観点から運動指導の在り方を考える上で大変重要である。この授業では、人間発達学の概念を学ぶことから始め、さらに代表的な発達理論に触れた上で、各発達期における身体的・生理的・運動的機能の発達を中心に学習する。さらに、各発達期における代表的な問題点と対応方法（特にスポーツとの関連性）についても理解を深める。

2. 授業の進め方

プレゼンテーションソフトを用いたスライドにより関連する写真やイラストを呈示しながら、さらに板書を組み合わせた講義形式で授業を進めていく。さらに、授業内で説明した重要語句の意味やそれらの関連性をまとめた「発育発達論レポート」を作成し提出課題とする。

3. 授業計画

1. ガイダンス、人間発達学の概念（発達に関する用語、発達期の区分、発達の原則）	8. 学童期の発達①（身体の変化、運動機能の変化）
2. 発達理論（歴史的変遷、エリクソンのライフサイクル理論、ピアジェの発生的認知理論）	9. 学童期の発達②（子どものロコモティブシンドローム）
3. 新生児期の発達（健康状態の指標、測定分類、ハイリスク要因）	10. 成長期スポーツ障害①（成長期の骨への障害、投球障害）
4. 乳児期の発達①（身体的発達、運動機能の発達：原始反射）	11. 成長期スポーツ障害②（ランニング障害、女性アスリートと骨障害）
5. 乳児期の発達②（運動機能の発達：姿勢反射、平衡反応）	12. 高齢期の加齢変化①（フレイルとロコモティブシンドローム）
6. 幼児期の発達①（身体的発達、運動機能の発達：歩行）	13. 高齢期の加齢変化②（サルコペニア）
7. 幼児期の発達②（運動機能の発達：上肢機能）	14. 障害（身体障害、精神障害、知的障害、発達障害）
	15. まとめ

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

授業で学んだ重要語句や図表などをまとめた「発育発達論レポート」作成に取り組んだ上で、毎回の授業に臨むこと（30分程度）。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポートについては添削、採点を行った上で返却する。また、定期試験については模範解答例を希望者に配布する。

6. 授業における学修の到達目標

本授業では、各発達期における発育発達の特徴をただ暗記するだけでなく、その知識を用いて運動指導に役立てることができるよう統合的な理解が得られることを目標とする。

7. 成績評価の方法・基準

提出課題（レポート）（約 30%程度）並びに定期試験（期末試験）の結果（約 70%程度）より総合的に評価する。

8. テキスト・参考文献

必要に応じて授業中に紹介または配布する。

9. 受講上の留意事項

毎回の授業時には配布プリントを必ず持参すること。

講義回数の 3 分の 1 以上を欠席した場合は、定期試験の受験資格を失うこととする。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は、医療機関における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

レジスタンストレーニングとコンディショニング		実習	教授 柳澤 修	
科目カテゴリー	スポーツトレーナーコースの選択必修科目, 柔道整復師コースの専門基礎科目, 救急救命士コースの教養選択科目		科目ナンバリング	11301201 12312201 13220211

1. 授業のねらい・概要

競技力を向上させるためには、筋腱複合体の機能を高めることが重要である。加えて、試合時に自身のパフォーマンスを最適な状態にするためには、身体のコンディショニングづくりが必要不可欠である。そこで本授業では、講義と実習を通じて、競技力向上に必要なレジスタンストレーニングおよびコンディショニング方法の基礎的知識を身につけることを目指す。

2. 授業の進め方

レジスタンストレーニングやコンディショニングに関する理論解説と実技を中心とした授業を行う。

3. 授業計画

1. ガイダンス	9. コアトレーニングとは
2. 身体の構造と機能	10. バランスボールトレーニングの実践
3. トレーニング科学の概論	11. プライオメトリクスとは
4. レジスタンストレーニングの理論	12. プライオメトリクスの実践
5. レジスタンストレーニングの実践（構造的エクササイズ）	13. 自重トレーニング
6. レジスタンストレーニングの実践（補助的エクササイズ）	14. コンディショニングとは
7. 持久性トレーニングの理論	15. コンディショニングの実践
8. 持久性トレーニングの実践	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

参考図書により、トレーニングする筋群の名称・機能について理解および把握しておく（30分程度）。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業レポートに対して、その都度改善点を口頭および模範実技により説明する。

6. 授業における学修の到達目標

レジスタンストレーニングやコンディショニングに関する基礎知識を習得し、指導する選手のみならず自身のパフォーマンス向上にもつながる実践能力を身につける。

7. 成績評価の方法・基準

授業内レポート（30%）と期末レポート（70%）にて評価する。成績評価にあたっては、授業回数の2/3以上の出席を前提とする。

8. テキスト・参考文献

NSCA ジャパン ストレngths&コンディショニング エクササイズ・バイブル, 実業之日本社

9. 受講上の留意事項

実際に自分自身でトレーニングの習慣をもつことが望ましい。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は、国内トップアスリートを対象とした研究機関における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

キャリアデザイン		講義	就職委員会
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの必修科目、スポーツトレーナーコースの必修科目	科目ナンバリング	11120301

1. 授業のねらい・概要

キャリアとは経歴、自分の生き方や働き方、つまりは人生そのものを意味し、将来のなりたい自分を実現するために主体的に人生を設計していくことをキャリアデザインという。そのためには自分を知り、自分がどのような社会、時代に生きているのかを認識し、円滑なコミュニケーションができるように他者を理解することが必要になる。

本科目は2年次の必修科目であり、この年次は卒業後の人生・進路の選択のために、自らの生き方や働き方を考え始めなければならない時期にあたる。よりよい人生を送るために、これまでの人生を振り返り、自分とその現在位置を知り、これからどこに向かい、そのために今、何をしなければならないのか。授業では自らのキャリアをデザインしていくために必要になる知識やスキルを紹介し、生き方や働き方について考える機会を提供して自分の将来を思い描ける力を身につけることを目的とする。

2. 授業の進め方

毎回テーマを決めて講義し、講義の内容をふまえてワークシートを作成していく。履修生が主体的に学んでいくアクティブ・ラーニングの手法を取る。それぞれが作成したワークシートは、今後の人生設計や就職活動等に活用できるものになる。

3. 授業計画

指導内容は概ね以下の通りだが、外部講師に委託して授業を行う場合には多少の前後が生じることがある。

1. ガイダンス	9. 職務適性テスト返却・解説
2. キャリアデザインとは	10. インターンシップとは
3. 自己分析 自分の強みを考える	11. 自己PR～企業へのアピール法
4. おカネを考える① 初任給・年収	12. 実習先の選定・応募方法
5. 職務適性テスト受検	13. 企業の探し方
6. おカネを考える② 生活費・老後	14. ブラック企業の見抜き方
7. 業界・仕事研究	15. 就活に向けて
8. ビジネスマナー	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習は必要ないが、授業を受けた後は必ず授業内容、配布教材やプリントを復習することが必要になる。そのための時間として1時間程度、必要になる。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

ワークシートはすべて回収して添削し、返却時に改善点や評価のポイントなどを指摘する。

6. 授業における学修の到達目標

- (1) キャリアデザインのために必要な知識やスキルを修得する。
- (2) キャリアに関する展望や自己の価値観を持てるようになる。
- (3) 自己のキャリアについて考えながら学生生活を過ごせるようになる。

7. 成績評価の方法・基準

授業への取り組み姿勢(50%)とワークシート(50%)によって評価する。

8. テキスト・参考文献

講義テキストを初回授業時に配布する。その他、必要になるプリントを毎回配布する。

9. 受講上の留意事項

授業中の私語は認めない。

他の学生に迷惑となる教室内の秩序を乱す行為については厳しい態度で臨むので十分留意すること。

毎回の授業は内容に連続性があるため、なるべく欠席しないこと。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

マクロ経済学		講義	准教授 小松原崇史
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの専門 選択科目	科目ナンバリング	11320203

1. 授業のねらい・概要

マクロ経済学についての基本的な考え方を説明します。各国の経済成長の可能性をさぐることで、マクロ経済学の目指していることです。

2. 授業の進め方

講義形式で授業を行います。授業の理解を深めるため、問題演習を行うことがあります。なお、履修者の理解度に応じて、以下の授業計画を変更する可能性があります。

3. 授業計画

1. マクロ経済学とは 2. GDP（国内総生産）とは 3. 一人あたり GDP 4. GDP の分解 5. 名目 GDP と実質 GDP 6. 経済成長の可能性 7. 前半のまとめと復習 8. 為替レートとは	9. 為替レートの表し方 10. 為替レートが社会に与える影響 11. 物価が社会に与える影響 12. 消費者物価指数とは 13. 失業が社会に与える影響 14. 完全失業率とは 15. 後半のまとめと復習
--	---

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の授業を受講後、その回の内容を復習してください。そのためには、毎回1，2時間程度が必要です。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

問題の解答を、授業内に解説します。

6. 授業における学修の到達目標

目標は、マクロ経済学の基本的な考え方を、理解できるようになることです。

7. 成績評価の方法・基準

期末試験（100%）によって、成績を評価します。

8. テキスト・参考文献

参考書として、N・グレゴリー・マンキュー著『マンキュー経済学 II マクロ編（第4版）』（東洋経済新報社，2019年）を使用します。

9. 受講上の留意事項

私語を厳禁とします。守れない学生に対しては直接注意を行い、改善が見られない場合には退出を求めます。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

ミクロ経済学		講義	准教授 小松原崇史
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの専門 選択科目	科目ナンバリング	11320204

1. 授業のねらい・概要

ミクロ経済学についての基本的な考え方を説明します。経済における一般的な法則を見出そうとすることが、ミクロ経済学の目指していることです。

2. 授業の進め方

講義形式で授業を行います。授業の理解を深めるため、問題演習を行うことがあります。なお、履修者の理解度に応じて、以下の授業計画を変更する可能性があります。

3. 授業計画

1. ミクロ経済学とは	9. 寡占（カルテルの可能性）
2. 生産にかかる費用（固定費用と可変費用）	10. 寡占（寡占の均衡）
3. 生産にかかる費用（平均費用と限界費用）	11. 独占的競争（広告をめぐる論争）
4. 独占（独占の価格設定について）	12. 独占的競争（ブランドをめぐる論争）
5. 独占（価格差別の分析）	13. 財の性質（公共財，共有資源）
6. 独占（価格差別の例）	14. 財の性質（排除可能性，消費の競合性）
7. 前半のまとめと復習	15. 後半のまとめと復習
8. 寡占（寡占とは）	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の授業を受講後、その回の内容を復習してください。そのためには、毎回1，2時間程度が必要です。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

問題の解答を、授業内に解説します。

6. 授業における学修の到達目標

目標は、ミクロ経済学の基本的な考え方を、理解できるようになることです。

7. 成績評価の方法・基準

期末試験（100%）によって、成績を評価します。

8. テキスト・参考文献

参考書として、N・グレゴリー・マンキュー著『マンキュー経済学 I ミクロ編（第4版）』（東洋経済新報社，2019年）を使用します。

9. 受講上の留意事項

私語を厳禁とします。守れない学生に対しては直接注意を行い、改善が見られない場合には退出を求めます。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

医療情報学		講義	教授 豊田 修一
科目カテゴリ	救急救命士コースの教養選択科目	科目ナンバリング	13220148

1. 授業のねらい・概要

医療情報学のもつ多様性（情報技術分野, 医療情報システム分野, 医療分野）と情報機器の安全な使用法（特にセキュリティ関連）やその利活用を理解することを目的とし, 各分野における基本的事項について教授する。その上で, それぞれの分野が有機的につながっていることも教授する。

2. 授業の進め方

講義を中心に進めるが, 学生の主体的な取り組みを期待する。

3. 授業計画

1. Society5.0 と医療 2. コンピュータの基礎 3. 情報セキュリティ 4. 医療情報の特性 5. 医療情報システムの概要 6. 電子カルテシステム 7. 遠隔医療システム 8. 地域医療と IT	9. システムの安全管理 10. 基本統計量の求め方 11. データの活用 12. 個人情報と医療情報倫理 13. 医療の DX 14. 医療と AI 15. まとめ
--	---

4. 準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

シラバスの授業計画の範囲の予習及び授業内容の復習で 60 分程度の学習を行なうこと。

5. 課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法

課題のフィードバックは終了後, 口頭若しくはメールにて解説を行う。

6. 授業における学修の到達目標

医療の情報化の目的・概要・特性, 医療機関で利用されている代表的な医療情報システムの機能・有効性, 個人情報保護, セキュリティやシステムの安全管理、データの利活用を理解することを目標とする。

7. 成績評価の方法・基準

定期試験（受験資格は 3 分の 2 以上の出席した者）70%, 積極性・提出物 30% で, 総合的に評価する。

8. テキスト・参考文献

テキスト：樺沢一之, 豊田修一「医療情報学入門第 2 版」共立出版 978-432012431-8

参考文献：1) 杉本真樹「IT が医療を変える」アスキーメディアワークス 978-404886217-2

2) 日本医療情報学会「新版 医療情報 医学・医療編」篠原出版

その他適宜紹介する。

9. 受講上の留意事項

特になし。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。企業におけるシステム技術者としての実務経験を活かして, 講義を行います。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリ」欄の記載のとおり。

医療保険論		講義	教授 豊田 修一	
科目カテゴリ	救急救命士コースの教養選択科目	科目ナンバリング	13220149	

1. 授業のねらい・概要

日本の医療保険制度や診療報酬制度の枠組みや基本的知識、および、これらの制度と医療関連法規との関連性について教授する。これにより、医療機関での事務処理の基礎を理解することを狙う。

2. 授業の進め方

講義を中心に進めるが、学生の主体的な取り組みを期待する。

3. 授業計画

1. ガイダンス	9. 診療録の管理
2. 医療機関の種類	10. 診療報酬の算定
3. 医療機関の組織とチーム医療	11. 包括評価方式（DPC）
4. 日本の医療保険制度の特徴	12. 診療報酬の請求
5. 保険の種類	13. レセプトの電子化
6. 保険給付の概要	14. 審査支払機関
7. 高額療養費制度	15. まとめ
8. 公費負担医療制度	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

シラバスの授業計画の範囲の予習及び授業内容の復習で 60 分程度の学習を行なうこと。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題のフィードバックは終了後、口頭やメールにて解説を行う。

6. 授業における学修の到達目標

医療機関の事務職が必要とする基礎的な用語が理解できるようにする。また、新聞などで報道される医療保険制度に関する記事や情報が理解できるようにする。

7. 成績評価の方法・基準

レポートの結果 70%、積極性・提出物 30%で、総合的に評価する。

8. テキスト・参考文献

テキスト：木津正昭 「最新医療事務入門 2026 年版」医学通信社

参考文献：安藤秀雄、望月稔之、他 「最新医事関連法の完全知識 2026 年版」医学通信社
その他適宜紹介する。

9. 受講上の留意事項

特になし。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリ」欄の記載のとおり。